

第 55 回 河川レンジャー制度運営委員会

日 時：平成 30 年 12 月 27 日（木）14:00～16:00
場 所：ウォーターステーション琵琶 1 階会議室

議 事 次 第

1. 開会
2. 委員紹介
3. 河川レンジャー任命式
4. 報告
 - (1) 第 54 回河川レンジャー制度運営委員会の議事録について (資料-1)
 - (2) 琵琶湖河川レンジャー・琵琶湖河川事務所意見交換会について (資料-2)
 - (3) 琵琶湖河川レンジャー勉強会「第 1 回 水防災研修」開催報告 (資料-3)
5. 審議
 - (1) 平成 30 年度 河川レンジャー活動計画（案）の承認について (資料-4)
 - (2) 河川レンジャー中間活動報告 (資料-5)
6. その他
 - (1) 今後のスケジュール（案） (資料-6)
 - (2) 河川レンジャーレポート VOL35 発行について (参考資料-1)
 - (3) 傍聴者からの意見
7. 閉会

【配付資料】

- 資料-1 第 54 回河川レンジャー制度運営委員会 議事録
- 資料-2 第 1 回 河川レンジャー・琵琶湖河川事務所意見交換会開催報告
- 資料-3 琵琶湖河川レンジャー勉強会「第 1 回 水防災研修」開催報告
- 資料-4 平成 30 年度 河川レンジャー年間活動計画（案）
- 資料-5 河川レンジャー中間活動報告書
- 資料-6 今後のスケジュール（案）

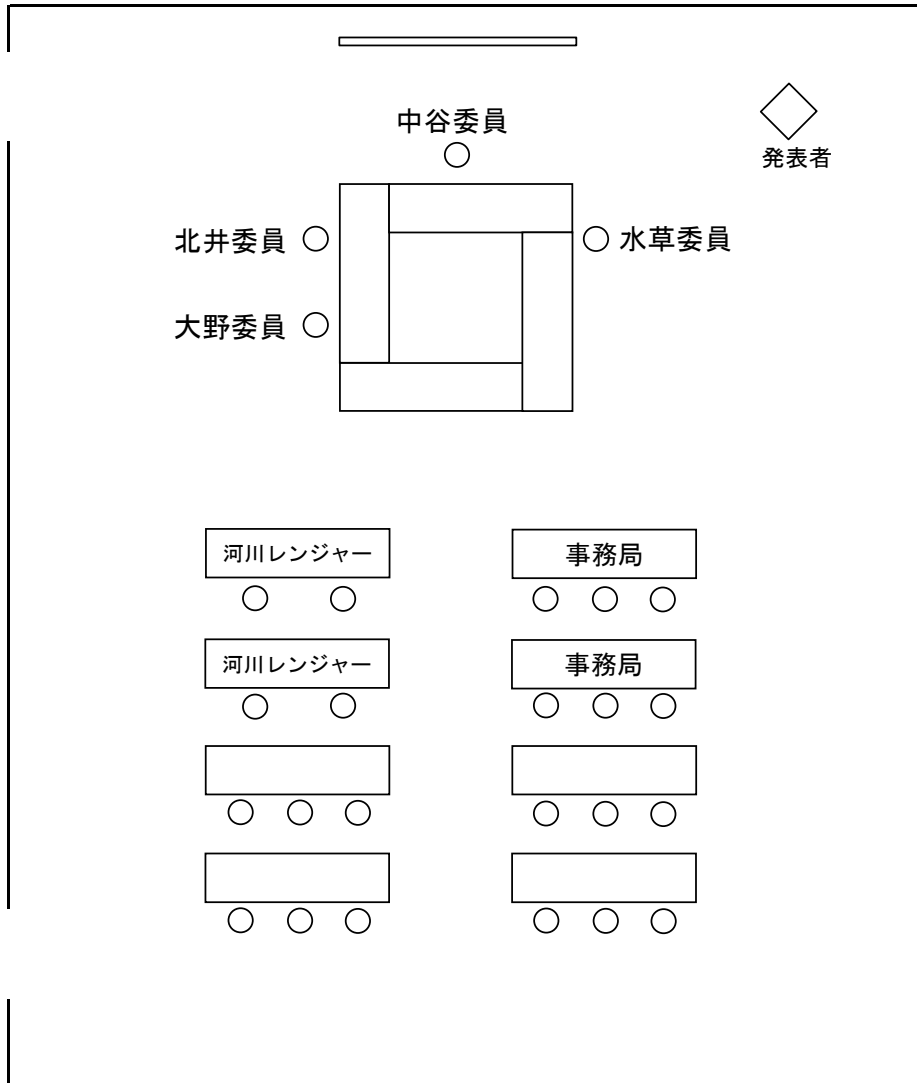
参考資料-1 河川レンジャーレポート Vol.35

第55回 河川レンジャー制度運営委員会 委員名簿

区分	分類	氏名	所属等	備考
河川レンジャー 制度運営委員会	学識経験者	おおの ともひこ 大野 智彦	金沢大学 地域創造学類/人間社会環境研究科	
		なかたに けいごう 中谷 恵剛	NPO法人瀬田川リバブレ隊	
		ひらやま なおこ 平山 奈央子	滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科	ご欠席
	住民	きたい かおり 北井 香	淡海の川づくりフォーラム実行委員長	
	行政関係者 (河川管理者)	いぶき のぶと 伊吹 信人	滋賀県土木交通部 流域政策室 河川・港湾室 室長	ご欠席
		みずくさ こういち 水草 浩一	国土交通省 琵琶湖河川事務所 所長	

(各50音順、敬称略)

配席図



(敬称略)

■第54回 河川レンジャー制度運営委員会 (2018. 6. 7) 議事録

◆出席：中谷委員、大野委員、伊吹委員、水草委員

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
1. 開会	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・少し定刻を回りましたが、これから第54回河川レンジャー制度運営委員会を開催させていただきます。 ・私、先ほどの意見交換会に引き続きまして司会をさせていただきます事務局の中西です。どうぞよろしくお願いします。 ・本日の委員会ですが、議事次第の次に委員の名簿がございます。きょうは4名ご出席いただいております。委員総数が6名でございますので、規約第8条2項の定めにより、過半数以上ということで成立しておりますことをご報告いたします。 ・お手元の資料ですが、議事次第と委員名簿、それ以外に本資料が1から4の4種類、それから参考資料が1から3の3種類ございます。そのほかに、資料番号はついておりませんが、委員会の規約をつけております。過不足等ございましたら、ご報告いただければと思います。 ・次に委員紹介ですけれども、先ほど意見交換会で紹介させていただきましたのでそこは割愛させていただきますが、ご欠席の方をご紹介します。平山委員と住民代表の北井委員、平山委員は所用でご欠席、北井委員におかれましては、3月末にご出産されて、現在産後間もないということで、ご欠席されております。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
2. 委員長・副委員長の選出	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、2番の「委員長・副委員長の選出」について、続けて事務局のほうで進めさせていただきます。 ・まず、委員長・副委員長の選出におきましては、事務局からの提案でございますが、例年その議事の進行を前年度の委員長にお願いしておりましたので、できれば前年の委員長の中谷委員に進行をお願いしたいのですけれども、皆様、いかがでしょうか。(「お願いします」の声あり) ・そうしましたら、中谷委員、よろしくお願いします。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、わかりました。それでは、前年度の委員長の役割ということで今年度の委員長を決めていきたいと思っております。規約上は委員の互選でということだったと思っておりますので、どなたか引き受けてくださる方がありましたらお伺いいたします。
	水草	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度もうまく運営いただいたので、中谷委員を再度委員長でいかがでしょうか。(「賛同します」の声あり)
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・そうしましたら、そういうお声をいただきましたので、今年度も務めさせ

		<p>ていただきます。委員の皆様、よろしくご協力をいただきたく、お願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • それから、毎年副委員長と一緒に決めており、昨年度は北井委員にお願いしておりました。今も話がありましたように、3月末に出産されたところではありますが、私の思いだけお話しさせていただくと、委員のカテゴリーを見ると、私は、住民みたいなものですが学識経験者と書いてあります。それから、大野さん、平山さんは学校の先生をされておられ、行政から水草委員、伊吹委員ということになっております。それで、こういう活動というのは住民のことも大事だと思っておりますので、ほかの委員も大事ですけれど、きょうは欠席ではありますが、お住まいも近くで、計画や、資料を見て意見をいただくことも可能と考えますし、半年先、また年度末に委員会を段取りされると思いますが、それぐらいの時期になれば3時間4時間は来ていただくことも可能かと思っておりますので、できれば引き続き北井委員に副委員長をお願いしてはと思います。嫌とは言われなと思いますので、そういうことでよろしいですか。（「はい」の声あり） • では、そのように決めさせていただきます。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> • はい、ありがとうございます。ただいま、委員長につきましては中谷委員、副委員長につきましては北井委員ということで引き続きお願いすることになりました。 • では、中谷委員は正面の委員長席にお願いします。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 報告 (1) 第53回委員会以降の動きについて	中谷	<ul style="list-style-type: none"> • それでは、早速進めさせていただきます。議事次第にのっとりまして、まず報告事項ですが、第53回委員会以降の動きについて資料-2が配られております。事務局から説明をお願いします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> • 前回委員会で河川レンジャー審査後の対応についてということで、資料-2のほうで説明申し上げます。 • 平成30年2月22日に前回の会議がございまして、河川レンジャー審査を非公開の場で執り行いました結果、1名のレンジャーの方が再任に至りませんでした。その後、今年度になりまして募集を続けているところでございます。再応募についても妨げないという形で考えておりました。現在は、3名の河川レンジャーの方で活動を展開していただいております。 • 今年度でございますが、資料-2にありますように、5月30日に1名河川レンジャーの応募がありました。20歳の男性の方で、現在学生をされております。この会議終了後、応募者に来ていただく予定にしておりますので、河川レンジャーの審査を執り行っていただきたいと思っております。

		ます。どうぞよろしく申し上げます。
	中谷	・説明、ありがとうございました。今もお聞きいただいたとおりです。後ほど応募のあった方の審査もするということになります。

(**太字**：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
4. 審議 (1) 平成30年度河川レンジャー活動計画(案)の承認について	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、続いて審議事項に入らせていただきます。 ・まず、それぞれのレンジャーから年間活動計画を提出していただいています。では、そちらの審査に移りたいと思います。進め方について説明をいただいて、順次レンジャーから報告を受けていきたいと思っています。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・現在活動されています3名のレンジャーから年間活動計画(案)を提出いただいております。取りまとめたものが資料-3でございます。これからこの内容につきまして承認・非承認等のご審議をお願いしたいと思っております。 ・根木山レンジャー、北村レンジャー、水上レンジャーの順で、お一人ずつ活動計画を説明していただきます。各レンジャーには10分程度で説明をお願いしており、その審議に一人15分ずつ設けております。計画の説明につきましては、パワーポイントを用いたり、資料を用いたりということと考えております。 ・説明は以上でございます。繰り返しますが、発表は10分、質疑応答15分をお願いしたいと思います。
	中谷	・時間管理をお願いします。
	M松岡	・わかりました。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・では、根木山レンジャーからお願いします。 ・委員の皆様には資料の最後に根木山レンジャーの報告概要、A4縦のパワーポイント形式のものをおつけしておりますので、参考に見てください。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・河川レンジャーの根木山です。今年度で6年目になります。よろしくお願いいたします。 ・きょうは、委員の皆様から昨年度末の報告会の際にいただいたコメントも出しながら質疑応答ができたと思って準備をしてきました。 ・計画書に書かせていただいたのですが、経過から言いますと、私が活動している守山市中洲、野洲川の下流部は、野洲川中洲親水公園の整備が終了しています。また、自転車道の整備も終了しているそうです。住民の要望を受けて行政で整備が行われ、多分地域外部からの来訪者も受け入れられるようなハード整備は一定済んだというような状況です。段階としては次のステージというか、しっかりそこを住民が生かしていくという段階に入っていくのかなということを感じています。

- ・特に中洲学区の住民の活動にかかわっているのですが、そこを今年度からもう少し踏み込んで何かできるのかということにチャレンジしたい。そういう年にしたいというふうに思っています。
- ・個人的には、夢物語的ですが、いい整備ができたので、地域住民の方々が野洲川という資源を生かして地域を活性化していくためのコミュニティービジネスというか、自然環境を生かした地域のなりわいのようなところまで行くことを目指してコミットしていきたいと。そういう理想だけ先に述べておきます。ただ、課題は大きいと思うので、そこにどうアプローチしていくのかということについて委員の皆様からご意見をいただいて、チャレンジしていきたいというふうに思っています。
- ・ミッションのところに書いているのですが、方法論としては、最近個人的に「コミュニティーオーガナイズング」や「ソーシャルマーケティング」と言われる取り組みのノウハウを勉強しながら活動しており、そういう視点を持ちながら、望ましい行動を住民の方々にとってもらうためにどういうアプローチができるのかということを考えていきたいと思っています。望ましい行動が何なのかということをもまず規定することがすごく大事なので、そのことについて委員から意見をいただきたいです。それから、住民にとってほしい行動は何なのかということをも共有できたらうれしいと思っています。
- ・これが昨年度末にいただいたコメントです。項目ごとに考えをお伝えしますので、後でご意見をいただけたらと思っています。
- ・まず、2019年に野洲川放水路40周年があります。これについて中洲会館に今年度異動してこられた新しい館長と情報交換をしました。それによると、既に市長から「平成31年6月2日に行事をするので、それを組織してほしい」という明示されているということをも情報としてつかんでいます。
- ・実際のところ、平成26年度から組織されている中洲まるごと活性化協議会野洲川プロジェクトが来年の3月31日で活動を終了します。せっかく組織されたのに終了してしまいます。6月20日には間に合わないということで、どうしようかと館長は考えておられます。
- ・別途親水公園ができたことで今年度から地元にあめんぼうサポート隊という任意のチームができていますが、これがどうなっていくかがまだ見えない状態です。この辺の中で40周年記念行事を住民側でどういうふうに組織されていくのかということを探りながら、そこにできるだけコミットできるように頑張りたいと思っています。
- ・次に、中谷委員長から「小規模にとどまらずに、少し規模も考えてはどうか」というような提起があったので、少しデータを持っています。
- ・守山市内だけですが、中洲学区、河西学区、吉身学区という3つの学区

が野洲川沿川にあります。僕がかかわっているのは中洲学区という一番小さなところで、人口が2,600しかありません。河西学区、吉身学区はその5倍ぐらい、小学校も吉身学区には2つあるので、そこにコミットするというのも場合によってありかなと思っています。この5年間は割と中洲に絞り込んでアプローチしているのですが、幅を広げてもいいのではというご意見があれば、それも含めて今年度の活動を考えていきたいと思っています。ただ、どこに絞り込んで、どういう方々にどういう望ましい行動をとってもらうのか、そのためにどういうアプローチをしたらいいのかということ悩んでいます。

- ・次は北井委員からの話で小学校、こども園との関係というものがあって、小学校の話を紹介させていただきます。
- ・今年度の中洲小学校の野洲川学習が既に実施されまして、年1回の取り組みですが、見学させていただきました。左上の写真が新しくできた親水公園です。すごくきれいで、5月の気持ちのいい季節に子供たちが楽しそうに宝物探しみたいな感じで昆虫を探したりしていました。授業の前半は「見つけておいで」みたいな感じでしていて、後半は、学校側の堤防を使って、そり滑りというか、ダンボール滑りをするというのがここ数年の恒例になっているみたいで、それをしていました。子供たちは非常にエキサイティングに遊んでいました。先生は「これをすると、毎年必ず誰かがすりむいたりけがをする」とつぶやいておられたのですが、これをさせてあげている中洲小学校はすてきだと個人的に思いました。ただ、この遊びがいいのかどうかというのは河川管理者的にあるのかなと思いました。
- ・あと気づいたのですが、一部イバラがあったのですが、先生たちは事前に草刈りもしてない。それを見ていて思ったのは、来年度も野洲川学習はあると思うので、例えばこの学習をやる1週間ぐらい前に僕らのほうで「一緒に除草作業をしませんか」と保護者の方に呼びかける。アイデアとしてはできそうかなと。そういうことをしていくと、子供たちのために野洲川の維持管理に参加してくれる大人が学区の中でふえてくるかなということ思いました。ただ、堤防部分なので、住民がやらなくても、河川管理者がどこかのタイミングで除草されると思うので、優先順位として除草作業は高いのかどうなのか、その辺を考えていますという話です。ただ、こういうきっかけがあると住民に呼びかけやすいのでいいかもしれないとも思っていて、校長先生とも雑談をしていたのですが、もしそんなことをしてもらえたらありがたい、とおっしゃっていました。
- ・あと、平山委員から、今後中洲学区で関係性を広げていくために僕がどういうふうアプローチしていくのかということ教えてほしいという

		<p>コメントがあったのですが、きょうはいらっしゃってないですけども、考えていることをお伝えさせてください。</p> <ul style="list-style-type: none">・今まで中洲学区の住民さんはオブザーバーで遠目で見ている、見学しているという感じだったのですが、先ほどもお伝えしたように、ことしはそこにコミットしていくというチャレンジの年にしたいと。今のところ、僕が概観していて把握している登場人物は、あめんぼうサポート隊という新しくできるチームが一つのキーですが、そこのリーダーの方が幸津川の自治会長で、中洲学区長で、しかも守山自治連合会会長というすごい方です。僕もあまり気安く近づけず今まで様子を見ていたのですが、ことしは思い切ってアプローチをしようと思っています。・あと、あめんぼうサポート隊の除草作業は去年から始まっていて、そのリーダーの方が仲間を7人ぐらい集めて年5回ぐらいしているのですが、聞いたところによると、リーダーの方はすごく忙しくて、サブリーダーの方がいると。それは副自治会長らしいのですが、その方が実務を担当していて、その六、七人の仲間を仕切っているという話があるので、リーダーにもヒアリングをしつつ、サブリーダーの方にもヒアリングをして、人間関係も含め、どういうふうに人が集まっているのかを把握したいと思っています。・中洲学区には5人の自治会長がいるので、それぞれにヒアリングをできたらいいなと思っています。・ちなみに、新庄の自治会長が野洲川プロジェクトのリーダーをするという取り決めになっていて、今年度から新庄の自治会長は新しい方にかわっています。・あと、僕のほうで関係性があると思っているのは、幸津川は割と女性や若者が多いのですが、自治会の中であまり活躍していないけれど顔と名前のわかる方が何人かいらっしゃるので、そういう人たちにアプローチしています。自治会の中ではそういう人たちの声は表に出ないのですが、その辺を把握しながら、その人たちが持っているウォンツやニーズを拾い上げて野洲川での活動をオーガナイズできないか、ということを考えています。・ただ、幸津川はすごく古い集落なので、絶対出るくいになってはいけないという規範があります。でも、実際聞いてみると、例えば一番上に書いた60代の女性は、農家のお嫁さんで、畑もしているし、日赤の奉仕活動で食事をつくったりもされていて、実は親水公園で食事を出すみたいな事業ができるのだったらすてきだなと思っているけれど、地域の中で自分が矢面に立ってそんなことをするなんてあり得ないというふうに思っているらしい。この方の娘さんがやすたんのメンバーなのでそういう話をちらちら聞いているのですが、そういう女性にも直接出
--	--	--

		<p>って、どうしたら「やりたいけど、やれない」というところを介助できるのかと。そういう働きかけ方みたいなことを考えたいというふうに思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことはこのような感じで考えているのですが、ご意見をいただけたらと思っています。ありがとうございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、発表ありがとうございました。そうしたら、委員の皆様、質問、ご意見等、どうぞ自由にご発言ください。 ・では、見てもらっている間に。一番初めに人数を出してもらったのですが、自治会長や、そういうピラミッド的なつながりがあれば、例えば「昔、野洲川が氾濫したときにこんなところまで水が行った」や「こんなことを探しています」ということがあればおそらく「そうだ」と一気に広まり、今はやりのまるごとまちごとハザードマップ的に「昔はこんなところまで水が来ました。それが今、改修されて、とても安全になりました」というようなところも40周年の話題の一つとして使えるのかなというように思っています。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・スロープはいいですね。大きいので、横に保育園があったら必ずやっているみたいな感じで。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・そり滑りですか。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・そう、そり滑り。刈ったほうが滑りやすいかな。人工芝みたいで。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・イバラがまざったりするので刈った方が安全だと思いますし、多分滑りやすくもなると思う。やすたんでも冬場にそり滑りをしたのですが、そのときは刈ってある状態だったのですが、すごく滑りやすかったので、いいとは思いますが。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございます。
	大野	<ul style="list-style-type: none"> ・あめんぼうサポート隊というのは、聞き逃したかもしれないですけども どういう経緯できたグループですか。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・公園ができて、除草作業を守山市から学区に委託する。それで幾らかの対価があるらしいです。その実務を学区の中で誰がするのかといったときの受け皿としてあめんぼうサポート隊という任意の組織をつくったという経緯です。それで、結果的に学区長がリーダーをしていると。
	大野	<ul style="list-style-type: none"> ・なるほど。その人がキーパーソンの方ということですね。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・そうです。
	大野	<ul style="list-style-type: none"> ・だから、そことつながっていくということは河川レンジャーの活動の中でもすごく重要になってくる場所ですね。

R根木山	・はい。
水草	・活動拠点が守山ということですのでけれども、どこまでできるかという話は別として、野洲川の直轄区間というとな隣の野洲市、栗東市ということにもなってくるのですが、そのあたりのコネクションがあるのかないのかも含めて、その40周年というキーワードで何かあるのかないのか。逆に「守山はこんなに進んでいるのですが」的な感じで乗り込んでいくのもなくはないと思うのですが、何かそういう考えは。難しいなら難しいで結構です。手広くやり過ぎて難しいなら、それはそれでいいですし、その辺何かアイデアがあるのかないのか。偉い方とのコネクションがあるからこそ、偉方同士で市をまたいで、向こうも実は「紹介する」みたいな話になるのか、ならないのか。
R根木山	・今、中洲では、細かく人に出会って信頼関係をつくって、そこから起ち上げていく方法でしているのですが、それをすると手数がかかるので、地域を広げると、逆に薄くなり、手が回り切らなくなるなど時間がかかる。だから、仮に栗東、野洲でしようと思ったときに、来年の6月までにどこまで出来るかということとはわからないところがあります。でも、そちらの優先順位が高いと思ったら、中洲を少し手薄にしてそちらにかかるというやり方としてはあるのかなと思っています。 ・今のところ、中洲会館の館長さんには指令が下っているということは承知したので、何か一緒に出来たらいいなという話をしていたのですが、では、栗東、野洲となったときに誰と一緒にやるということはすぐに出てこない感じはあります。
水草	・基本的に放水路で掘った区間となってくると、やはり守山が広い、中洲が広いということになるのですが、地域の水害が減ったという意味でいうと上流も絡んでくるということもあり、どういうふうにしようかというところが「つなぐ」なので、根木山さん自身が出ていってもいいし、協力者を発掘して共に進めていくということもアイデアとしてあると思います。ご自身で頑張ろうとすると手が足りないのはそのとおりだと思うので、そこを意識していただきたいと思います。
中谷	・所長にも動いてもらうようにして。
伊吹	・時間の関係でご説明を聞かせてもらえなかったのですが地域住民と行政をつなぐ取り組みの中で、樹木伐採の支援というのは実際どういう形で考えておられるのか、参考にお聞きしたいです。
R根木山	・昨年度も実施したので割愛させていただいたのですが、なかず野洲川たんけん隊という野洲川で活動するための住民グループをこの3年間で組織してきたのですが、その人たちに野洲川で樹木の公募伐採という制度があるよということをお伝えしたところ、伐採をしてもいいということで、ことしの1月から3月に子供たちと一緒に樹木伐採をしていただき

		<p>ました。琵琶湖河川事務所が公募しているのに対して野洲川たんけん隊で応募して、許可をいただいて、子供たちと一緒に3回伐採活動をしました。木の本数にすると、たった7本ぐらいですが、柳の木を伐採しました。特に治水のためにしているという意識はなく、木登りをして子供たちは純粋に冬場の野外活動としてすごく楽しかったので、今年度もなかず野洲川たんけん隊の年間計画の中に、来年の1月・2月・3月、毎月1回樹木伐採をしましょうという計画が位置づけられたということです。</p>
	伊吹	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりました。
	大野	<ul style="list-style-type: none"> ・最初におっしゃった、地域の方が野洲川を地域資源として価値を見出して、そこで少し経済的な循環もという話はすごく重要な話だと思います。どのような進展があったのか聞かせていただけることを楽しみにしています。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。頑張ります。いきなりは難しいと思いますが。
	大野	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。そのご苦労も含めていろいろお聞きできれば、すごく貴重な財産になるというふうに思います。
	水草	<ul style="list-style-type: none"> ・例えばですが、農家をされているということで、常々私が言っているのは、除草でほかの国交省の事務所で動物を使って除草ということがキーワードになっていて、道路公団も実施しているのですが、ヤギや羊は基本的にレンタルをしています。ヤギの面倒見という意味でお金を払ってヤギを借りて、途中で病気や死亡しても責任は負えないという部分も含めてお金を払っています。結果的に人間を雇って機械で刈ることと同額程度ということです。では、同額だからどっちがいいかという、地域に愛されることを考えると、そういうメリットがよいと思ってしている事務所があることは事実です。 ・それを直営でするとそうなるのですが、例えば地域の方がヤギを飼っていて、草を食べさせたいという要望があるなら、そこは許可を与えるのかという事があるし、我々としてもよかったということで、そういう方法も。例えば乗馬クラブのようなところがあり馬の餌に食べさせたり、そのような情報があれば、我々河川管理者ができる範囲で協力するし、してほしいことが新しく出てくるということもあるかもしれない。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・今の話に関連して、そういうことで回すと、お金も回るかもしれないので。 ・長浜新川では、羊は今のそういう仕組みじゃなかったですか。あれは地元がしているのですよね。
	伊吹	<ul style="list-style-type: none"> ・そうです。地元と、県も含めてですが、羊を一定期間放牧して、飼いながら草刈りをしてもらうとか、食べてもらうというような取り組みを県でおこなっています。

水草	・それは、羊の持ち主は誰になるのですか。
伊吹	・羊は、たしかレンタルで。
水草	・やはりレンタル。
伊吹	・はい、そうです。
中谷	・ただ、囲いや、そういうものをうまく回したりする。
伊吹	・そうです。
水草	・それにお金がかかるのですよね。
中谷	・あと、占用許可やその辺も。
R根木山	・また適宜教えていただきながら。
中谷	<p>・はい、発表ありがとうございました。委員の皆様、よろしいでしょうか。</p> <p>・今も話がありましたとおり、40周年も念頭に置いていただきながら。地域の皆さんがかかわって続けていくということが大事だと思います。長く活動してもらっているし、その辺は十分承知していただいていると思います。</p> <p>・根木山さんの計画についてはこれで承認とさせていただきますが、よろしいでしょうか。（「はい」の声あり）</p>
水草	<p>・すみません。言うのを忘れていました。さっきの意見交換会でありました、河川管理者としてかゆいところは何かということ、安く除草ができるということがひっかかる、あとは40周年に向けて地域住民の方々とどういうふうにリンクするかということが恐らく評価項目として出てくるのかなど。これは我々も1年かけて考えていなければいけないですけども。</p>
中谷	・はい、ありがとうございました。
R根木山	・ありがとうございます。
△中西	・そうしましたら、続きまして北村レンジャーにことしの計画の説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
R北村	<p>・北村です。よろしくお願いいたします。</p> <p>・今回はパワーポイントを作成しておりませんので、配付してもらっている資料-3のレンジャーの活動計画の3ページ、4ページをご参照下さい。</p> <p>・参考までに、昨年度末に1年間の活動の成果品として冊子をまとめたものをお手元に届いている方もいらっしゃると思いますが、念のため、もう一度きょうの資料としてお渡しさせていただいております。よろしくお願いいたします。</p> <p>・まず2018年度の私の活動のテーマは、表題にも挙げさせていただいております「河川にまつわる『地域の記憶掘り起こし』と会話の場の創出」ということで、これまで2期4年目になります。引き続き同じテーマを</p>

	<p>中心に進めていきたいと思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の背景や昨年度の課題は書いてあるとおりでありますが、活動を進めていく中で、これからの川との関係をお話ししていく土壌をつくっていききたいと思っているのですが、いきなりその話し合いの場に足を運んでお話をするという事は地域の方にとってハードルが高いのではというふうに常々感じておりました。そこで、川に関して自分たちの経験をもとに話をしていけるようなツールや場の創出ができればと思い、まずは個々の方々がお持ちのアルバムの中から昔の写真に注目しまして、どのように地域の方が川と過ごして関係を築いていったかということ掘り起こし、記録として残していこうと思い4年目の活動になっています。 ・これまで年に2回、3回と活動を進めていた成果品として毎回写真展を開催しております。今年度に関しましては、委員会前になりますが、ゴールデンウィーク中、下流の南郷インターの近くにびわこ池田記念墓地公園という創価学会の大きな施設があるのですが、そちらの奥に無料休憩所とレストランがあります。その有効利用、地域に開けた運営を目指しておられる中で、どうか地域の方が足を向けてくれないか、地域の人たちに喜んでもらえるような取り組みを自分たちもお手伝いできないかという相談を連合自治会長さん経由で管理運営をされている西武造園からご提案をいただきました。その話が出たときにお手元に配っております冊子の配布についてメディア各紙に取り上げていただき、読売新聞の記事を拝見された創価学会のほうから来場者が多いゴールデンウィークにその写真展を開催してほしいというふうに打診を受け、実現することになりました。 ・詳しくは後で説明しますが、こういう形の写真展やヒアリングをすることを通じて一つでもたくさん写真を集め、地域の方の河川との思い出や河川管理に関する経験を一つでも多く紡いでいきたいと思っています。 ・ビジョンとミッションはそこに書いてあるとおりのので、ごらんいただいたらと思います。 ・3ページ下ですが、今年度の成果目標として大きく4つの項目を立てました。1、2、3に関してはこれまでからの継続の取り組みとして書いておまして、4つ目の「治水利水に関する学習ツールの開発、作成」というのを新規で設けさせていただきました。 ・次の4ページにその1、2、3の項目について個々の内容を書いております。 ・大きなものは、先ほどの写真展の開催です。5月に開催したのですが、このように一番奥にある、無料の休憩所でさせていただきました。 ・会場の風景ですが、もともと別のことで使われていた会場を半分お借り
--	---

して開催しています。ここから下流の鹿跳橋から天ヶ瀬ダムにかけての流域で昭和40年前後まで遊覧船が運行されていたということがありまして、今回その船長から当時の河川の写真を借りることができましたので、展示しました。

- この場所を選んだ理由として、公共ではないですが、写真が撮影された外畑地区や曾束地区、天ヶ瀬ダムの流域に一番近く大きな施設であること、撮影場所がすぐ横にあるため写真を見た方が行き帰りに今の風景と比べられるということ、この地域に住んでいる方が一番足を運びやすいのではと思い、この場所で開催することにしました。
- 期間的は10日ほどの実施ですが、細かい数字はここでは申し上げますが、トータル1,200人強来場していただきました。そして、何より一番大きな成果だったのは、近隣の地域の方、曾束地区、外畑地区、内畑地区と、あともう少し離れた、京都府にかかる、笠取の集落のご高齢の方も、戸数が少ない地域ですが、半分の方が足を運んでくださいました。そのためお話もたくさん聞けましたし、新規で自分たちの持っている写真を使ってほしいというお申し出もいただくことができましたので、現在、お申し出いただいた地元の方たちが中心となって写真の整理やデータ化に取り組んでいただいております。
- このように写真を見ながら話をしたり、人が集まってくれる場でもありますので、昔の天ヶ瀬ダムと今の天ヶ瀬ダムという今昔比較もできるようにと思い、天ヶ瀬ダム再開発事業のYouTubeの動画DVDを借りて、この事業について少しお話をするような時間や場所も設けています。
- 人がいないとがらんとしていますが、ここで伺った話は、メモ程度ですが、附箋にメモをしたりお話をしてくれる方はICレコーダーで録音しながら情報の収集に努めました。いただいた意見をみんなで見られるようにこのようにメモを追加し、皆さんが経験されたものにプラスして「私はこういうこともあったよ」という意見ももらえたので、今回の写真展は10日間にしてはとても有益な結果が出たのではないかと考えています。
- 「書いてください」「アンケートに答えてください」と言うと、特に高齢の方は「そこまではいいです」と言う方が多いのですが、「お話を聞かせてもらえますか」「何か知っていますか」と声をかけると、いろいろなお話をしてくださるので、私がメモをとって、「このお話を張ってもいいですか」と聞きながら載せていきました。はっきり点数は聞いていないのですが、外畑地区に関してお話がゆっくり聞けたと思っていますし、こういう活動をこれからも続けて、充実させていきたいと思っています。
- これはアマサイの動画を見ているところです。皆さんすごく興味を持っ

	<p>てくださるのですが、専門用語が難しいねと。それを聞かれたときに私も説明ができなかったので、もう少し私たちも勉強できたらいいですねというふうなお話もしましたし、今後こういう話を聞く機会があるなら行ってみたいという方も割といらっしゃったので、興味関心を持ってもらえるタイミングと情報の出し方によっては、実はいろいろな接点生まれるのではないかと感じています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回天ヶ瀬ダムに注目した理由としては、これはダムの上ですが、ダムができる前という形で実際の天ヶ瀬ダム上に展示されています。これを見学に行ったときに見て、写真展で昔の写真とつなげたらどうだろう、今の活動を少しわかりやすくできたらいいなというふうな着想をしました。 ・これはアマサイの今の工事現場の写真ですけれども、実際にどんなことをしているか知らないと思っていたら、支援室のご紹介で見学する機会をいただきました。実際、見学に行って説明を聞いた中で、もっとこれをたくさんの人にわかりやすく、特に子供たちに伝えていけるような取り組みがしたいと。それを昨年度のご担当者だった工務課課長と相談している中で、何かツールを一緒につくってみようという着想に至っています。それが先ほどの3ページの一番下、活動の成果目標の4番に「治水利水に関する学習ツールの開発、作成」として挙げております。 ・個々の内容に関してはこれから詰めないといけないところがたくさんありますが、今までの古写真を中心とした活動から少しずつ派生して、現在の河川事務所の取り組みや地域の方の興味関心を少しずつクロスさせ、そこから新しいものが展開できたらなというふうに思いながら今年度も頑張って活動していこうと思っています。 ・ちなみに、最後のツール作成のところですが、やるのであればきっちりしたものを作りたいと思い、昨年度の臼井課長と相談をして助成金の申請を出し、助成金を得ることができましたので、ツール開発をこれから本格的に進めて、皆さんが使える形で還元していきたいなと思っています。 ・駆け足になりましたけれども、これで終わります。ありがとうございました。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、発表ありがとうございました。それでは、委員の皆様から質問、意見等、お伺います。いかがでしょうか。
大野	<ul style="list-style-type: none"> ・河川への関心がそんなに明確ではない方へのアプローチという意味で非常に意義がある活動で、ことしもそういう計画ということをお願いしながら聞かせていただきましたが、写真の収集は今年度も継続されていくと。
R北村	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、続けます。
大野	<ul style="list-style-type: none"> ・その場所は同じ瀬田川周辺か、それとも少し広げてなど、そういうこと

		は考えておられますか。
R北村		<ul style="list-style-type: none"> ・今回は特に下流のほう、曾束を固めてそこを重点にしたのですが、もっと上流にも上がっていきたいと思っています。 ・今、一つ大きなものとしては、実は瀬田の唐橋周辺も結構いただいています。注目度が高く、人口密度が高いところなので、もう少し形になってから冊子にまとめたほうがいいと思っているので、外畑もしつつ、唐橋もしつつやっていたらいいと思っています。
大野		<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。 ・もう一つ。今、見せていただいていると、結構風景や観光に行ったという語が多いと思うのですが、生き物のことはあまり出てこないですか。例えば、こういう魚をとったことがあったなど。
R北村		<ul style="list-style-type: none"> ・今回の写真展では地元の方からお話を聞くことが多かったのですが、船に乗っておられた船頭さんが夜にウナギをとっていたと言われていました。浅瀬のできやすいところに夜行ってとったよ、はえ縄漁をしていた地域があるよなど。もちろん今はそんな漁はできないと思うのでは、そういう場所も幾つかお聞きしました。結構ウナギをとっていたというふうに皆さん言われるので、今と何か違うのかなと。今の生態系は知らないですけど、その辺も調べていたらおもしろいかと。
大野		<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。生き物も河川工事、河川管理と人や社会との接点になると思うので、そういうところも情報が蓄積されていったらおもしろいのではと思いつながら聞いていました。
R北村		<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございます。
伊吹		<ul style="list-style-type: none"> ・感想になりますが、我々行政と地域住民の方というと、どうしても単刀直入になってしまい、いい関係をつくるのに苦労しているような状況もある中で、時間はかかるが、こうして昔の写真から少しずつきっかけづくりをしていただいているというのはすごく感心したところです。 ・あと、治水利水に関する学習ツールというのが天ヶ瀬に特化した学習ツールなのか一般的な治水利水の学習ツールなのかわかりませんが、いい冊子ができるといいなと思って期待しております。
水草		<ul style="list-style-type: none"> ・河川管理者のかゆいところという意味でいうと、先ほどのご質問にもありましたように、瀬田川もあるのですが、野洲川もあるところもあるのですがそこへ行ってみるとか。
R北村		<ul style="list-style-type: none"> ・野洲川ですか？
水草		<ul style="list-style-type: none"> ・野洲川もあるし、例えば、河川管理という意味で、広く、我々が昔持っていたという意味では草津川の放水路や、治水事業をしてどういうふうに変ったなど、拠点が大石ということであれば、国交省の区間ではないですが、例えば大戸川の区間はいまだに洪水に困っているということがあります。そういう話や写真、草津川や野洲川であれば洪水があった

		ときと河川整備後の違いということで今昔の話や写真もあるだろうし、そういうものがあつたらいいと思ったりします。
R北村		<ul style="list-style-type: none"> ・草津川に関しては、初期のレンジャーが活動しています。ツールもあるので、それと比較してプラスできるようなのを何かしたいと思ったり、野洲川も上流に関して写真でお手伝いしたことがあります。下流部までおりてきていないので。特に地域を定めてやっているつもりはないですけど、動き出すと、どうしても自然にその地域から集まってきている感じがします。ただ、広げていきたいと思っていますし、きっかけがあれば行きます。きっかけがないと、なかなか足を向けてないですけど。
水草		<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。だから、そこは根木山さんや水上さんが動いていて、コネクションという意味ではそこから紹介や、一緒にとということもあるかもしれない。 ・野洲川に特化するのであれば、きっかけは40周年ぐらいしかないですけど、今言った草津川はうちの直轄区間ではないので「そこをなぜ？」という話になると、少し幅広く治水という意味に捉まえるという言い方はあると思います。そこはどう料理をして出していくかということにはなろうかと思うのですが。
R北村		<ul style="list-style-type: none"> ・管理課がよく葉山川へ行っておられると聞いたので、それにくっついていこうかというお話もこの間させてもらって、その辺も相談しながら広げたいと思っています。
水草		<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。そういうのがあると、ありがたいかと思います。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございます。 ・先ほど来出ているお話に関連しますが、昔と比べて今があり、例えば天ヶ瀬のこの写真。船を使って同じところへ行っ、今の姿を写してみる。野洲川が整備されたという、短い区間の整備ですが、整備前はどんな姿であったなど。これから30年後のことを考えると、今は普通に暮らしていて、当たり前になっているけれど、「今」を切り取っておくということも大事だと思うので、そういうことも意識を持って活動してもらいたいと思います。 ・それから、今も所長の話にあつたように、水上さんや根木山さん。直接行かなくても「40周年になるし、また地元にも声をかけて」的なことで広がると思うので、そういうところも意識して活動してもらえばいいと思います。
水草		<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。協力者を発掘することがレンジャーだとすれば、根木山さんや水上さんに動いていただくこともレンジャーの仕事だと言えるかもしれません。

中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを少し広げて「こことここがつながる」的なことを思いながら活動してもらっていいと思うので。
水草	<ul style="list-style-type: none"> ・そうです。あとは、その写真も今だと思い出になっているので、河川管理者がどう料理するかと考えたときに、例えば、今おっしゃっていましたが、全く同じアングルで同じポジションで撮って、今と昔でどう変わったのか。「この写真を撮ってから何十年間でこういうふうには川の風景が変わりました」、「昔はペンペン草も生えてなかった河原だったのが、今はもう雑草が生い茂って、草の管理をしないといけない」「昔は泡が立って汚かったのに、水質がよくなってきた」という話があると、河川管理者として「なるほど。そういうことがありました。」と。あるいは、30年後ぐらいに今回撮っていただいた写真を今度は「昔はこうでした」というふうにもまた使ったらつながりになるとか、そういうアイデア出しも含めて何を河川管理者が欲しいかを聞いていただくこともあるかもしれない。 ・あと、個人的におもしろいと思うことが、最近ネットでもあるみたいですが、少し広角で撮ったところに昔の写真を当てはめて「今と昔はこうですよ」と。同じアングルではめることもあるし、同じ画角というのもあるけれど、いろいろ方法があると、使いようがあると。ただ「昔の写真ですよ」だけだと、なかなか我々も使えないので。
R北村	<ul style="list-style-type: none"> ・広角とかになると、私が撮るには。
水草	<ul style="list-style-type: none"> ・機材が？
R北村	<ul style="list-style-type: none"> ・機材的なものと、今回の写真に関しては船の上から撮っておられるので。
水草	<ul style="list-style-type: none"> ・そう。今だと、水の底みたいな話になっていたりするので。
R北村	<ul style="list-style-type: none"> ・陸から場所の特定はしているのですが、同じアングルから撮れないので、その辺を一回相談させてもらえたらなど。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・相談というよりは、船を出してくれと頼んでいただけたらいいと思います。
R北村	<ul style="list-style-type: none"> ・出してください。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・こういうものも、工事直後で山が削れているけれど、今行ったら緑になっているので、例えばいつの時代にこの物がなくなったのか、どれぐらいいすると裸地に木が生えてきたのかということも見られるといいなと思いました。
水草	<ul style="list-style-type: none"> ・実は、ダムは仮設の構台が一部残っていたりします。「これは何？」とよく質問も受けるのですが、「何だろう」と言って。でも、昔の写真を見ると「これはクレーンを載せていた台だ」ということがわかったりします。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・そういう面で、建設中のものがあるとおもしろいかもしれない。この辺

		<p>にクレーンのワイヤーが張ってあったり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・では、委員の皆さん、よろしいですか。
大野		<ul style="list-style-type: none"> ・せっかくなので、もう一つ。今年度の成果目標の3つ目に「認知度向上」と書かれていて、それは今まで北村さんが成果を上げてこられたところで重要だと思いますが、いろいろな方と接しておられて、やはり認知度はまだ低いという印象ですか。
R北村		<ul style="list-style-type: none"> ・低いです。急に行くと「名前は聞いたことはあるけど、何をしているの?」とか、「レンジャー」という名前が愛護モニター的なイメージで捉えている方も多くて、私が実際地域へ出て撮影場所を探していると「そんなこともしているの?」と言われてたりもするので、地道に一人ずつしゃべっていくことが結果として一番早いのではと最近思っています。 ・ただ、冊子ができたり、写真展をするときは、マスコミの力を借りることが一番です。訴求力がすごいので。この数年で活動に協力してくださったり理解を示してくださっている記者さんが何人かして、仲よくさせてもらっているので、「今度こんなことをするよ」と言ったら来てくださいます。この天ヶ瀬の写真に関しても、今、京都新聞さんが独自で追跡取材をされているので、それについていかせてもらったり。どうしても京都側の情報は持ちにくいので、そこはもう新聞社さんに任せてとかいう関係ができてきたので、少しずつになると思いますが、していけたらいいなど。
大野		<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。新しいレンジャーのリクルートや、そういう意味でも重要なので。北村さんの活動の中でというのもあると思いますけれども、制度全体としてこれはすごく重要な課題だなというふうに思いました。
水草		<ul style="list-style-type: none"> ・そういう意味では、来年の野洲川放水路の40周年に向けて、守山市も結構な予算をつけていると。中洲の土地が放水路になってしまったという思いがあるので、市長肝いりです。逆に言えば、市長肝いりであれば、市の広報を活用して「写真をご提供ください」というのを出してもらうこともあるだろうし、そういう活動が地元の地方紙の地域欄に載るだとか、きっかけの可能性はあるので、たきつけ方だと思います。
R北村		<ul style="list-style-type: none"> ・じゃ、水上さんと相談して。
水草		<ul style="list-style-type: none"> ・中洲会館の館長が「広報に出しましょう」という話であれば、してもらってもいいですし、協力者にしてもらって成功という意味でやり方次第だと思います。それが遠回りといえは遠回りですが、例えば瀬田川の唐橋をやるには遠回りかもしれないですけど。
R北村		<ul style="list-style-type: none"> ・流域なので。
水草		<ul style="list-style-type: none"> ・うまく考えていただいて。
R北村		<ul style="list-style-type: none"> ・はい、わかりました。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございました。

	<ul style="list-style-type: none"> • それでは、北村さんの計画は承認させていただきます。よろしくお願いします。
R北村	<ul style="list-style-type: none"> • ありがとうございます。
△中西	<ul style="list-style-type: none"> • 続きまして、水上レンジャーから計画のご説明をお願いしたいと思います。
R水上	<ul style="list-style-type: none"> • 1年弱ですけれども、昨年の7月から活動しています河川レンジャーの水上です。どうぞよろしくお願いします。 • 今年度、2018年度の年間活動計画を説明させていただきます。 • この年間活動計画をつくるに当たり、昨年の7月から地域の方や行政の方にヒアリングさせていただきました。特に、今回大きなテーマで考えます企業のヒアリング、少し信頼関係ができた企業の方々の思いと、きょうもお聞きしましたが、行政の思い、「課題」という言い方もしていますけれども、それをつなぐような年間活動をいろいろ考えてみましたので説明させていただきます。 • 最初に、背景と昨年度の課題です。私は行政にいましたけれども、住民の目線から、川は住民の宝であって、たくさんの人に川に関心を持ってもらい、川に直接触れてもらって、川のことを住民みずから考えてもらうということが非常に大事だと思っています。そのためには、住民が川づくりに参加できるような取り組みを進めるべきだと思っています。それを進めるに当たっては、行政と住民がともに考える、そしてともに行動する川づくりが重要であると考えています。 • 実施目的のビジョンとしましては、最初は野洲川を多くの住民の方が活動できるような場所にしたい。あと、行政と一緒に川づくりの仕組み、あくまで仕組みができるようにいろいろ活動していきたいと。最終的に、住民と行政が参加した川づくりが実現すると。いい川づくりをしたいということを考えています。 • ミッションとしては、3つのサブテーマで活動を考えています。これは昨年も説明しましたが、1つは地域住民参加の川づくり。2番目は、大きく言えば地域住民ですが、企業参加の川づくり。3番目も大きく言えば住民ですが、学校教育。地元中学校参加の川づくりということで、3つの切り口から活動します。 • 今年度は、先ほど言いましたように、昨年ヒアリングをした中で、特に企業、地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくりから始めようと考えております。もう一つは、根木山レンジャーから引き継いだ地元中学校の川づくりということを考えています。 • 特に、ことし私がメインで考えているのは「企業、地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくり」ということで、後で説明しますが、春と秋の2回に分けてやろうと思っています。

- ・実際の活動は、1つは「川を守る編」ということを考えています。行政から言えば河川管理、河川清掃ということですが、住民目線で考えて「川を守る編」というタイトルをつけさせていただいています。
- ・具体的にどういふふうにしていくかという、CSR活動、企業の社会貢献的な活動として河川清掃を実際にされているイマックという会社があるのですが、昨年度ヒアリングをさせていただいて、その活動をつないで進めていこうと。
- ・なぜCSR活動を考えたかといいますと、河川清掃のときには動員をかけたりますが、そういうノルマ的な活動ではなくて、実際に川への思いを託してやっておられるような企業を探しました。特に今回は、行政で野洲川クリーン作戦をやっているのですが、行政のヒアリングにおいて住民連携をしながらやっていきたいという思いを言われていましたので、そこもつなげる形で。
- ・そして、3番の立命館守山中学校。これは、継続的にやっている中で新たに河川清掃も実施しましたので、それをつなげられればいいかなと。
- ・あと、根木山レンジャーが中洲の活動をされていますが、うまく連携して。先ほど「協力者を発掘して」と言われましたが、これを私は「連携」という言い方をしています。連携して、まず行政と企業と中学校をつなぐ野洲川清掃活動の実施を考えています。
- ・もう既に実施時期が決まっています、河川愛護月間の7月28日(土)です。実施項目は、川を守るということで河川清掃。時間は、暑いので夕方になっています。清掃場所は今調整中ですが、中洲で集まって、そこを中心に、それぞれ過去にやっておられたところを清掃していこうと考えています。
- ・私は常日ごろ「ウィン・ウィンでつなぐ」と言っていますので、ウィンの整理をしています。企業にとってはCSR活動の広がりということで、昨年ヒアリングのときに地域との連携を非常に言われました。そういう地域との連携をうまくできるのではないかと。行政としては、先ほどの会議でも課題ということも言われていましたので、住民連携による川づくり。これは川を守るということで、維持管理や河川清掃がうまく進んでいくのではないかと。もう一つは3番目のサイエンスクラブの活動の広がりということで、昨年度、野洲川全体のあるべき姿と言うのでしょうか、河口部だけしか見ていませんでしたが、少し上流へ上がりごみ清掃やごみ調査をしていただくと、活動の広がりができるのではないかと。
- ・私の河川レンジャーの位置づけとしましては「行政と企業、住民を繋ぐ事により住民連携による川づくり（川を守る、川を利用する）の仕組みづくりを構築する」ということで、これが河川レンジャーの活動ではないかということで整理をしています。

- ・では、実際どう運用していくかという点、先ほどの会議で言いましたが、河川レンジャー1人ではなかなかできません。当然、全体のコーディネーターは私・河川レンジャー。あるいは、企業や立命館守山中学校といった住民の方々の調整は河川レンジャーがすると。それから、行政にも助けていただかないとできませんので、例えば地元・守山市の調整は琵琶湖河川事務所のほうでやっていく。そして、地域住民参加の調整も、最初ですので、守山市にやっていく。これは琵琶湖河川事務所、河川管理者のほうから依頼してもらおうという形で、行政と河川レンジャーと一緒にやっていくと。ただ、河川レンジャーは中立の立場できちっとやっていきたいと思っています。
- ・これが進んで、第2弾として考えているのが秋の概要版です。1回目は、春の予定だったのですが、結果的に夏になってしまいましたが、2回目は秋に考えています。ここに書いていますように、今度は「川を守る」だけでなく「川を利用する、川から守る編」ということで、基本方針は、夏に実施した活動をさらに発展させるため「川を守る、川を利用する、川から守る」をテーマに活動します。
- ・内容的にはほぼ一緒ですが、夏に実施した経験を踏まえ、ひょっとしたらうまくいくのではないかと思います、例えばイマックとおつき合いをされているJA。あとは立命館守山中学校、それから根木山レンジャーと調整をしながらやっていくということは変わっていません。
- ・実施時期は秋。実施内容は、春のときは1部しか実施しませんが、2部に防災のイベント。先ほど40周年のイベントの話が出てきましたが、私は40周年のイベントをするのではなく、最初に40周年のプレイベントをやってみたらおもしろいと。CSR活動をされているイマックにお聞きしたら、そういう機会があれば非常に参加しやすいということをおっしゃっています。ぜひ参加していただいて、なおかつ2部としては「川の危ない事を知り川で安全に楽しく遊んでもらう」と。中洲に親水護岸ができましたが、やはり川は危ないから自分の身は自分で守りましょうということと、あるいは想定外の洪水になったときはいろんなことがあるということで、一つは水難訓練を考えています。それから、非常食の試食や魚つかみ、いろいろ楽しいこともやってみたいと。その細かいところはまた調整していきたいと思っています。
- ・もう一つの地元中学の川づくりは、これは継続してやっていきたいと思っていますが、それぞれの思いをコーディネートして、意見交換会(YRP)をしながら新たな活動もやっていきたいと。特に今回は昨年意見交換会で出た柳の抑制実験を調査項目に追加して、日本ストックホルム青少年水大賞へのエントリーを行ってモチベーションを上げていくということで、言い方は悪いですがけれども、手をかえ品をかえ、継続的にいろんな

		<p>ところでコーディネートさせていただきながら住民参加の川づくりを進めていきたいと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象としては、企業、地域住民、河川管理者、立命館守山中学校です。 ・最後に工程表を書いています。野洲川清掃活動は7月にやって、その後ヒアリングをしながら取りまとめる。河口部のヨシ帯再生は、YRPを開催しながら、春と秋に先ほどのテーマにのっとった調査をしていきたいということで考えています。こういうことをやりながら河口部や中洲のところを進めていきます。 ・最後に、これは夢ですけども、野洲川の石部のところまで、清掃だけではなく、川づくりのモニタリングもやりながら住民と一緒にできればなど。野洲川は13kmほどありますけれども、その間で上流に向かって進めていきたいと思っています。そして、当然レンジャーとも連携しながらやっていければいいかなと思っています。 ・走りまわりましたが、以上で年間活動の説明を終わります。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、説明ありがとうございました。それでは、委員の皆様から質問、ご意見等伺います。どなたからでも結構です。どうぞ。
	水草	<ul style="list-style-type: none"> ・イマックという会社は、どのような会社ですか。
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・工場でLEDをつくっている会社です。ヒアリングをしたときには、地域に根づきたいということで、例えば地元の小学生を工場見学に連れてきたり、守山のいかだ下りに参加したり、JAとボウリング大会をしたりと、社長が地域との連携をよく考えておられると。これは根木山レンジャーの情報をもとにヒアリングへ行ったのですが、非常に地域住民のことを大切に考えておられるところです。ただ、100人ぐらいの小さな会社です。毎年春と秋に清掃をされていて、家族も含めて50人ぐらいが参加されている。 ・雑談になりますが、去年、滋賀銀行や、いろんなところに当たってみました。コマーシャルではよく「環境をやります」と言っているのですが、実際はしていないから、それはだめだと。やはり実際にしているところと一緒にやってそれを広めていくほうが非常にうまく広がっていくのではないかと考えてみました。
	水草	<ul style="list-style-type: none"> ・秋のイベントは防災という観点が入っていますが、特に「川を利用する」の「利用する」という意味が川の中の利用だと思いますが、秋は遅いかなという気がしています。魚つかみや水難訓練、危ない川を知ることが。かといって、夏だと早過ぎる。早過ぎるというのは、タイミングとしては早くないけれど、準備が早過ぎるという意味での早過ぎる。
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・そうです。
	水草	<ul style="list-style-type: none"> ・これは9月下旬から11月初旬で、一番遅いと11月初旬になってしまうので、今さら川で遊ばないよねという状況になる点についてはどうでしょ

		うか。
R水上		・そこも考えました。川でイベントをやろうと思うと、9月の台風時期は苦しいということがあったものですから。
水草		・実際、流れちゃう可能性があります。イベントは立てたけれど、当日水位が高過ぎますなど。
R水上		<ul style="list-style-type: none"> ・そうです、一生懸命立てたのに流れてしまったら。 ・余談ですが、私は雨男です。そういうことで。それは冗談ですけど。そうすると、どうしてもいい天気でないといけないので、台風時期を過ぎたころはどうかと。あるいは、順延みたいな形で流れないような仕組みをつくってやっていくということもありますが、それは調整しながら。 ・確かに、旬のときにやるほうがアピール効果はあります。
水草		・そうですよね。内容とタイミングが非常にもったいないという感じがしなくはないです。
R水上		・そうすると、どちらかというとも8月ぐらい？
水草		・第1回の7月28日にもしもこれが一緒に出来るのであれば一番いいと思います。子供が一番川で遊びたい時期でしょうし。
R水上		・7月28日は調整済みで、それはもう無理です。
水草		・無理ですか。
R水上		・はい。それと、7月はとても暑いです。
水草		・それはそうですね。
R水上		・熱中症になると困るものですから。そこはご意見としてお聞きして、旬になるように考えてみます。本当は防災のあれはたしか9月でしたね。
水草		・9月1日が防災の日。
R水上		・そう。防災月間ですね。その辺のところでアピール効果があるのかなと。
水草		<ul style="list-style-type: none"> ・もう一つ、防災教育という面でいうと、実はきょう栗東市の葉山小学校の生徒が隣へ社会見学に来ています。なぜ来ているかという、野洲川流域全体のモデル校にことし認定しています。野洲川周辺4市の中のたった1校しかないですけど、防災教育をお試しでやってみるという小学校に今ノミネートしています。当然、市立の学校でやるということは教育委員会等にも通している話ではあるので、誘いやすいといえれば誘いやすい。もちろん事務局がコネクションを持っているから、きょう社会見学に来ていただいている。ただ、場所が飛ぶのでこの場に呼べるかどうかは別として、そういうコネクションはあるので、防災教育を小学校でやったらどうかということも含みで何かあれば、話はあります。 ・なぜパイロット校として葉山小学校の子たちに防災教育をするかという、徐々にですが、将来的は流域の全ての小中学校に防災教育を広げる

		<p>ため、ここで何かやっていただけるのであれば、我々が今後これを全小中学校に展開するときのネタの一つとして利用できるという意味でもありがたいと。我々は小学校をやっているので「中学校は立命館守山で」ということもあるかもしれませんが、防災教育の観点での連携があればいいと思います。</p>
R水上		<p>・その近くに中洲小学校があります。根木山レンジャーの話にありましたが、今回の護岸を利用しています。中洲小学校はいろんな面でネットワークがありますので、そこに依頼し、一方は葉山小学校も来ると。やっぱり小学校の人もちょっと集めると。どちらかという、葉山小学校は呼び水的なもので。こちらも呼び水ですけど、それも一回考えてみます。そこはまさに行政と一緒にやりたいと思っていますので、また行政の思いも聞かせていただきたいと思っています。</p>
中谷		<p>・秋の第2部は、どれぐらいの規模をイメージされていますか。これからですか。</p>
R水上		<p>・これからですが、最低でも100人ぐらいは集めたいと思っています。 ・ただ、動員ではなくて、「わたしが行きます」という気持ちの人たちを集めたいと思っています。そうじゃないと長続きしません。だから、人数より、1,000人集めるより、きちっとした人を100人集めようという考え方で進めようと思っています。</p>
中谷		<p>・そういう中で、例えばこれを続けてということになると、何か仕掛けをしないと、地元が自主的に動くのは難しいかもしれない。</p>
R水上		<p>・そうです。</p>
中谷		<p>・前回も申し上げましたが、木が余っているなら、とって乾かし、非常食を食べるときに火をたくのに使う、場所が許されるのであれば防災用のかまどベンチをどこかにつくるとかいうようなことも。</p>
R水上		<p>・本当は7月も、例えばバーベキューや、そういう楽しいこともしようと思いましたが、公園で難しく。そこは少し知恵を絞って。別に公園の横でも。地元ともめないような形でうまく調整していきたいと思っています。 ・私が思っているのは、2部は楽しいことをやりたいです。まさに地域の防災ですから、先ほど言われたかまどとか、そういうものもして。</p>
中谷		<p>・「『訓練』という名前ではあるけれども、行ったらおもしろいことをやっているよ」というような。</p>
R水上		<p>・そうです。例えば水難訓練だったら、「あっ、危ない」というところを実際見たほうがいいと思って、プロの方に溺れてもらってそれを助けに行く、そういういろんなアイデア出しをしたいと思っています。</p>
中谷		<p>・イマックのほかに、例えば沿川の、何かイメージできるような企業はなかなかピックアップできないですか。</p>

R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・本音を言いますと、イマックだけではなく、滋賀銀行や、何社か電話をしました。ただ、イマックに話を聞くと、先ほども言いましたように、J Aがすぐ隣にあって、J Aがボウリング大会をやっている。J Aというのは環境を考えておられますので、CSR活動の部分でつなげないかと思っていますが、とりあえず夏にやってみて。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・その辺から。
R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。時間がかかるけれど。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・そういうときにJ Aからスイカをいただくとか。それは冗談ですが、何かそういうつながりでうまく広がっていくと、参加のバラエティーがあつていいです。
R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・イマックは非常にその人を核にして。我々の見方になってくれる方なので、それをうまくつなげていけばいいと思っています。
水草	<ul style="list-style-type: none"> ・最近は見ませんけれども、昔、私が子供のころはセイタカアワダチソウが大問題になり、根っこから変な成分を出して周りの草を枯らします。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。自分も枯れます。
水草	<ul style="list-style-type: none"> ・積もり積もると自分も枯れます。逆に言うと、外来種じゃなくいいものがあつて、それを植えれば堤防の草が生えなくなる、そういうことをJ Aが持っているのであればそれはそれでいいし、耳をダンボにしてそういうことを聞いて回っていただくこともあるのかなと。
R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・「河川清掃」と言うと、普通の一般的なもの。オリジナルの環境活動や、そういうことをすればおもしろいかなと思っています。
水草	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみを拾うだけではなく、そのごみを持っていったら高く買ってくれるところはないか、そういう「つなぐ」があれば。
R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかと差別化をして、やることによって補助金うまく取ってくるといろんな活動が広がるので、そういうことを考えています。ただ、一朝一夕にはできませんので。
水草	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐにはできません。そういう意味では、イマックも今の社長にやる気があるからということはあると思いますし、イマックにとってメリットが出てこない。例えば社長が代れば態勢が変わる。そういう話になると非常にもったいない。イマックがベストかどうかというのはあるけれども、企業としてのメリットも何か出してあげないと、場の提供だけではなかなか次につながるかどうかわからないので。端的に言えば、宣伝の場ということになるかもしれません。
R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば国交省のホームページに実際おこなった活動を載せてもらうなど、LEDをつくっておられますので、うまく宣伝できるような場を少し。それは河川レンジャーじゃないとできないと思う。国交省は一企業

		にできないから、そこはまさに河川レンジャーの出番ではないかと。そこは調整できるかなと思っています
	大野	・7月の清掃のときは、中学校と企業の方は別々の場所でやるという感じですか。
	R水上	・そこはどちらもいいと思いますが、できるだけ従来やっている場所でもらったほうがいいかなと。全体でやっている感がありますが一緒にやっている感がないので、中洲にみんなが集まり、そこで琵琶湖河川事務所が主体となって説明をいろいろしてもらい、そこから分かれて、終わったらまた帰ってくるという形です。
	大野	・多分つなぐというところをどうやって実現するかが難しいと思うので、その清掃のやり方をいろいろ考えてみるなど。 ・例えば、私の知っているものに、スポーツごみ拾い。ごみ拾い自体をスポーツにしてチームで競うことがあって、海岸の清掃などでされています。あと、保津川で実施しているものだと、ごみマップをつくらう。どこにどのようなごみが、どれくらい落ちているのかをみんなで拾いながら調べようとか。そういう手法がそのまま使えるかどうかはわからないですけども、何かそういう情報収集をされてみてもいいのかなということ聞きながら思いました。
	R水上	・夏の場合はとりあえずやってみようという形で、それで核をつくれればご意見をいただいて、それを広げていこうと思います。きょういただいたご意見を。
	大野	・秋に向けてということになると思います。
	R水上	・はい。ある意味で、秋が勝負だと思います。
	中谷	・ほかによろしいでしょうか。いかがですか。 ・では、いろいろネットワークを広げて頑張ってくださいますように。計画はこれで承認させていただきます。ありがとうございます。
	R水上	・はい。どうもありがとうございました。
	中谷	・レンジャーさんの活動計画については今ほど発表いただき、質問、ご意見をいただきました。またそれを踏まえて活動を進めていただきたいと思います。 ・それでは、これで審議事項は終わりとさせていただきます。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
5. その他 (1)今年度の委員会運営に	中谷	・あと、「その他」の項目。議事次第には2点ありまして、まず1点目が「今年度の委員会運営について」ということで、資料-4が配付されております。これについて説明をお願いします。

<p>ついて</p>	<p>△中西</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お手元の資料ー４の一枚物でございますけれども、今年度、平成30年度の琵琶湖河川レンジャーの年間スケジュール(案)をお示ししております。 ・左に「制度運営委員会等」という列がございますが、6月のところにきょう行いました意見交換会と制度運営委員会を示しております。年間通しますと、その後、来月ごろを目途に琵琶湖河川レンジャーと琵琶湖河川事務所の1回目の意見交換会、10月に第2回目となります第55回制度運営委員会を考えております。これは例年10月、11月ごろに実施されていまして、ここで中間報告と計画の修正等について意見交換をしたいと思っております。12月には、河川レンジャーと琵琶湖河川事務所の2回目の意見交換会を開催したいと思っております。そして、2月に年度のまとめの報告ということで第56回制度運営委員会を考えております。 ・真ん中の列は「河川レンジャーミーティングおよび勉強会」ということで、主に河川レンジャーを対象に考えております。まず、5月に第1回河川レンジャーミーティングということで、レンジャー同士で集まって、活動の計画ですとか悩み等、いろいろと意見交換していただきました。こういった活動を年3回ぐらい考えております。おおよそ制度運営委員会の前段ですとか12月の意見交換会の前に集まっていただきまして、レンジャー同士の情報交換や意見交換を考えております。また、9月に河川レンジャー勉強会というのを支援室から提案させていただいております。これは、防災活動といいますか、水防災に関係するテーマで河川レンジャーと知識共有をしていきたいと思っております、「勉強会」という名前で計画をしております。参考資料ー2として勉強会の材料をつけておりますので、後ほど簡単に触れさせていただきたいと思っております。 ・一番右の列が「その他」ということで、これは河川レンジャーレポートの発行や流域連携のイベントを載せております。当面は、7月を目途に、レンジャーレポートを発行したいと考えております。特にここでは河川レンジャー自身で活動された内容などを発信していきたいと考えていまして、7月では、既に北村レンジャーの活動が終わっていますので、そういったところをテーマにできたらと支援室では考えています。また、ことしで第11回になりますけれども、こちらのウォーターステーション琵琶湖を利用されているウォーターステーション琵琶湖の会を中心に企画されている「水辺の匠」という流域連携イベントがございますので、7月21日(土)、22日(日)の開催が決まっております。また、冬のクリスマスイベントも12月2日に予定されています。それから、2月には淡海の川づくりフォーラムがございますので、これも計画に入れております。 ・主なスケジュール(案)は、以上となっております。 ・時間もないので余り詳しくは説明できないですが、先ほど勉強会を開催
------------	------------	--

		<p>させていただきたいと申しましたが、こちらに関する資料が参考資料ー2でございます。「自ら判断して避難できる住民へ～マイ防災マップの作成について(体験学習)～」ということで、こういった支援ができればと考えております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・背景としまして、近年、計画を上回るような出水が鬼怒川ですとか、また、上回らないにしても、ここ淀川水系でも堤防いっぱいに来るような出水を経験していることもありまして、ハード整備をしつつも、そういった規格を超える出水に関してはソフト対策も充実していかないといけないというような現状になっております。そこで、私どもとしましては、淀川の河川レンジャーを中心に、マイ防災マップづくりという活動を助言したり、ツールをつくったりしてまいりましたので、琵琶湖河川レンジャーにもこういった知識・情報共有ができればという思いで提案させていただいております。きょうそれぞれの活動テーマが承認されましたので急に活動に入れていただくのはなかなか難しい面もあると思っておりますが、防災教育や防災活動のことも知識として持っていて、今後の活動の幅を広げていただけたらと考えております。 ・お手元の参考資料ー2では、1度目の勉強会の一つの方法として、これをもう少し充実したものでかけていくということでご紹介したいと思っております。実際、運営委員会の委員の皆様には9月に勉強会を実施するというで終わった後の報告になってしまうかもしれませんが、この場で少しご紹介させていただいたということでございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございます。 ・今後の進め方、委員会運営については先ほど一枚紙でスケジュールを示していただきました。ほぼ例年どおりのことですし、事務所とレンジャーとの意見交換会も適宜入れていただいて、それは進めていければというふうに思いますが、委員の皆様からこのスケジュールに関して何かご意見等ございませんでしょうか。
	水草	<ul style="list-style-type: none"> ・この12月のところに事務所との意見交換会があってレンジャーミーティングがありますが、レンジャーミーティングを先にするというふうに先ほど言われたのですが、私は後に開催したらどうかと思います。 ・というのは、12月の意見交換会は、例の河川管理者のかゆいところ、来年度のかゆいところをお示しする場になろうかと思っております。それをもとにレンジャーの皆さんが計画を立てていくということを考えると、「河川管理者はあんなことを言っていた」というのも踏まえてミーティングをしたほうがいいような気もするのですが、実際に議論するのはレンジャーなので、どうですかというところですけども。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・レンジャー、いかがでしょうか。
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・前か後かというだけなので、前じゃないといけない理由はないので、い

		いと思います。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> •では、スケジュールは事務局、支援室と相談していただいで決めていただきたいと思います。 •今の所長のお話であれば、運営委員会と事務局が話す機会はないですが、先ほど来示されている表がアレンジされるのであれば、「今の考えはこういうものです」というのはお示しいたきたいと思います。
	水草	<ul style="list-style-type: none"> •そうですね。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> •それと、参考資料-2が配られましたが、中ほどに野洲川のことも載っています。「昔はこういう大変なときがあり、改修工事を経て今のこういう姿になっています」と。それはそれでいいのですが、後のほうへ行きますと、気になるページがありまして、7ページ、8ページ。河川レンジャーが行う活動のイメージ、その次のページには啓発活動は河川レンジャーの基本的な活動と書いていますが、今の段階ではっきり活動してもらうのは行き過ぎだと思います。既にレジメに載っているの、この資料の取り扱いはどうかという気がします、そういうところにつながるのであれば、例えば野洲川を。鬼怒川や桂川のようなひどい例があるのは事実です。それはいいですが、野洲川の例もひもときながら、活動計画としてまさにそのフィールドであるので、その辺を少し丁寧に。例えば「こういうアプローチはどうでしょう」や、レンジャーの疑問点も踏まえないと、一般の住民はもとより、レンジャーに対して水防災の意識がどうだということを一きなり言っても、うまく計画に反映してとはいかないだろうという気もします。 •示してもらっている表の延長線上にあるのかなという気はしますが、「環境だけでなく、川にはこういう側面もあります」ということを踏まえた上で。意識として持っていただくのは大変重要だと思いますが、先ほども言いましたように、河川レンジャーの基本的な活動とか、そういうふうを書いてもらうと、それはまずいと思います。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> •わかりました。
	水草	<ul style="list-style-type: none"> •そういった意味では、座学が9月にある意味が何なのかと考えたときに、活動の後半で意識してもらおうという意味なのかどうかになってくるのですが、せっかくであれば今年度の活動をもっと早くするべきだと思いますし、私は見えて中途半端だなというふうに思います。委員長が言われた事もっともだと思います。 •乱暴な言い方ですが、私の提案ですけれども、ことしはもう諦める。ことしというのは今年度。それで、来年度に向けての勉強という意味でいうと、事務局側から「こうですよ」と出します。それを見て、レンジャー同士で議論して「来年、これに興味がある」ということを出して、それを受けて勉強会でそのネタ出しをします。例えば「来年、住民避難を

		やりたい」という話があったら、空白の1月もしくは2月の冒頭に勉強会という形で「住民避難にはこういうものがあります」ということをしていたほうが勉強会の意味があるし、無駄玉を打たないという意味でも事務局も楽だと思う。ただ、年度末は取りまとめが大変かもしれないですが。
	中谷	・今の所長の話のとおり、勉強会として看板立てをするということもありますが、そういう情報提供をするのであれば、2回目の事務所との意見交換の場で資料提供的なことをしていただくということもいいかもしれません。
	水草	・それもありますし、無駄玉をなくすならば、「これ」と決めたところ、白羽の矢のところだけを狙い撃ちで勉強するというのもありだし。 ・そう考えたら、12月の事務所との意見交換会も、我々は年度で動いているので、このタイミングじゃないといけないわけではない。もう少し早めにとということも不可能ではないので、例えば事務所との意見交換会は11月にしてしまってもいいです。11月と12月で我々も意見が変わるわけではないので。
	△中西	・このあたりは、無理をしてこの時期に開かなくてもとは思っております。
	水草	・どちらかというと、順番です。順番で入れていくと、ここになってしまうという感じで予定してもいい気がします。
	中谷	・その辺を踏まえていただいて、中身につきましても、先ほど言いましたように、レンジャーの活動とうまくリンクする、特出ししないというところも大事だと思うので。
	△中西	・はい、そうですね。私どもも1年目で、勢いよく書き過ぎてしまっているところがありますので。
	中谷	・意識としてはもちろん大事なテーマなのでそれはよくわかりますが、そこはこの活動にマッチしたようにうまくアレンジしていただくということをお願いしたいと思います。
	△中西	・はい。
	中谷	・ここまでの通しの中で委員の皆様から特にございませんでしょうか。 ・そうしましたら報告事項、審議に関してはここまでとさせていただきます。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
5. その他 (2) 傍聴者からの意見	中谷	・では、いつものとおり、傍聴の方で発言のご希望がありましたら、短い時間ではございますが、お伺いします。いかがでしょうか。はい、どうぞ。

○朝田	<ul style="list-style-type: none"> 先ほど報告をしてもらった根木山レンジャーの計画ですが、6年間という非常に長い間よく頑張ってくださいと思います。報告を聞いていて、住民の声を聞いて活動するということが基本になってため非常によいと思います。河川レンジャーが野洲川でどれだけ認識されているかということを知りたいと思う。僕は、瀬田川の中で活動していますが、河川レンジャーがいるということを知ってほしいと思います。そういう意味では、根木山レンジャーが河川レンジャーとして地域でどれだけ認識されているかということを知りたいと思います。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> よろしければ、発言ください。
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> なかなか力が及ばずで、それほど認知度はないと思います。かかわっている方には知っていただいていると思いますが、それがどれだけの数なのかということ、正確なことはお伝えできないですし、多分すごくたくさん知っていただいているということはないのかなと思っています。おっしゃるように、知っていただけるように頑張りたいと思います。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> 地道な活動をいろんな世代からうまく捉まえて活動してもらっているので、それは確実に広がっているというふうに思います。
水草	<ul style="list-style-type: none"> 今の件については、レンジャーとして目立つ、「レンジャーって、こうだよ」と認知度を上げるというもの一つありますが、もう一つはレンジャーが黒子になって、つまり結果的にレンジャーがいなくなっても地域と河川管理者が自動的につながるという場をつくった黒子としては非常に意味がある。だから、そこは「意味があった。褒めて」とアピールするのも一つありますが、そうではなく、黒子に徹してよかったと思うレンジャーも世の中にはいるわけで、それはレンジャーの特性だと思います。必ずアピールしないといけないわけではないし、必ず黒子に徹さないといけないわけでもない、そこは自由でいいと私は思います。
○朝田	<ul style="list-style-type: none"> 僕は、瀬田川のお膝元だから、河川レンジャーがよくやってくれているということが住民で納得できたらいいなというふうに思います。
水草	<ul style="list-style-type: none"> そうですね。せっかくだからアピールすればいいのにとするのはわかります。私もそう思いますが、世の中いろいろな人がいて、アピールするより黒子に徹するとか、そこは人だと思います。 例えば、看護師でも「こんなに頑張った」と言う人もいれば、「別に健康になっていただければそれで結構です」と言う人もいます。
○朝田	<ul style="list-style-type: none"> 例えば、報告というより、実際に活動をするということが必要だと思います。「しました」というのと違って、「よくやってもらっている」というような感じになるのが一番いいのではというふうに思います。
水草	<ul style="list-style-type: none"> そこは我々もしっかりと評価という形で認めさせていただくということになろうかと思っています。

中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・表現は違えども、同じことを考えていると思います。積極的に「これをしました」と言わないけれど、見る人は見ていて、「そういう活動してもらっているから今こういう姿がある」ということをうまく理解できていくのだろうと思います。 ・委員の皆様からほかに何か。
大野	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールのところと言えばよかったのですが、きょう何度か出てきた河川管理者の課題のリストというものがいろんな意味ですごく重要になってくると思います。それで、できれば次回の委員会のときに、今回のものも最新ではないということだったので、新しい項目をもう少し網羅的につけ加えていただいて、それから「それがなぜ、どう課題なのか」というところも少し加えたものを見せていただければ、より議論しやすくなると思います。 ・例えば、レンジャーの募集のときにそういうことは非常に重要になってくると思います。そういうものを常に定期的に更新して委員会の折に出していただく、何かそういうような仕組みで取り入れていくことができればいいかなというふうに思いました。それは要望として発言させていただきます。
水草	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、10月の中間のときの運営委員会に「12月の意見交換会で新しい的をつくります」というものを、仮でもいいので、河川管理者としてはお見せした上でということがまず必要だと思います。そうしないと、計画まで見ないということになるので。
大野	<ul style="list-style-type: none"> ・それが非常に重要になってくると思います。
水草	<ul style="list-style-type: none"> ・その的を見てレンジャーミーティングを開催して、「私は、ことしはあれを狙おうと思っている」と。そして、それをもって今度は支援室のほうで詳しい説明資料や、河川管理者にその真意を問いただすのであれば、河川管理者の担当者と呼び説明を受けるといいでしょうし。という感じなのかなという気はします。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございます。 ・ほかにないようでしたら、運営委員会の公開の部分についてはここまでとさせていただきます。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
6. 閉会	△中西	<ul style="list-style-type: none">・ありがとうございました。そうしましたら、以上をもちまして第54回河川レンジャー制度運営委員会を閉会させていただきます。・それでは、これから休憩を挟みます。少しおくれておりますので、3分ほどしかありませんが、40分まで休憩ということで、この後、非公開審議に移らせていただきます。申しわけございませんが、傍聴者の方、河川レンジャーの方はこれでご退席願いたいと思います。どうもありがとうございました。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
7. 河川レンジャー審査 (非公開審議)	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、非公開審議ということで、河川レンジャーに1名応募がございましたので、その審査をお願いしたいと思います。 ・審査につきましては、今お手元に配りました、応募された内容を書いた非公開資料-1だけでございますが、この後ご本人に入っていただきまして、こちらをもとにご説明いただきます。説明は5分ほどでございます。その後、委員の皆様から応募者に対して質問等していただけたらと思っております。質問時間は10分と考えておりますので、トータル15分ほどとなります。その後、応募者にはご退席いただきまして、任命の可否についてご審議をいただきたいと思っております。 ・ということで今からお呼びするんですが、近藤啓太さんという方でございます。
	水草	・その前に、これは応募用紙なんですけれども、計画はどこでどうするんですか。これで応募内容でオーケーとなった場合は。
	△中西	・恐らく、その後、計画を。
	水草	・それからですよ、もちろん。
	△中西	・それからですね。
	水草	・それで、その内容をどうするとか、それはどういう流れなんだろう。今まではどうしてたんですかね。
	M松岡	・この場で任命の可否をご判断いただいて、次回の委員会に本人が下半期に向けた計画をまず。
	水草	・じゃ、半年分のということ。
	M松岡	・はい、そうです。その流れでこれまでやっておりました。
	水草	・活動開始はいつの段階で？ それから？
	M松岡	・今回可否をいただきますので、これがベースになるかと思っておりますけれども、レンジャーとして水面下で準備をしていただくような流れで。たしか、水上さんのときもそういう形で行っていただいていたと。
	水草	・じゃ、助走期間みたいな感じになっているということですか。
	M松岡	・はい、そうですね。その中で支援室としましても、琵琶湖河川レンジャーの制度についてですとか、流域委員会でのレンジャー、川と人とのつながりですとか、そういったところは一度ご訪問いただいてしっかりレクチャーをすると。さらに、次回までの間、他のレンジャーの活動もございますので、そういったところにお誘いしながら現場も見えていただいたり、雰囲気もつかんでいただこうとは考えております。
	水草	・そうすると、11月に計画が正式承認されて、報告がもう2月になっちゃうということですね。

M松岡	・はい。
中谷	・正式な任命も次の機会だったら10月しかないもんね。
△中西	・そうです。
△武田	・7月1日から活動は始まるんですけど、その期間は計画案をつくっていただいて。
中谷	・任命書の日付はどうでしたっけ。何月何日付で任命しますというのは。
△武田	・それは7月1日付で、中谷さんが10月の委員会で任命書を渡す。
中谷	・そしたら、日付はもうすぐになっちゃうということですね。
水草	・それって、持ち回りとか臨時でとか、何かあるの？
△藤井	・いや、特にはしてなかったです。
△奥野	・大体は事前に各委員の皆さんにメールを送らせていただいて、こういう内容でどうでしょうかという意見をいただくとかですね。
水草	・でも、それって、7月のそれまでにやらなきゃいけないということだよな、今の話だと。正式にはだよ。だから、さかのぼればいいかもしれないけれども。
△奥野	・そうですね。基本、そうです。ただ、初めてになりますので、それまでにでき上がるかどうかというところが。
水草	・まあ、そうですけど。多分、臨時は招集するお金も時間もないだろうから、持ち回りの感じのことに。
中谷	・うん、それはそれでいいと思いますけれどもね。メールを配信してもらって、意見があれば返して、直すところがあれば直してもらって、それでもって再度送ってゴーサインを出す。
水草	・ゴーサインをして、10月に修正みたいな感じですかね。
中谷	・うん、そんな感じですね。では、そういう前提で進むということで。
水草	・だから、ちょっと今までとは変わる。今までは、10月までは何もしないという話だったわけでしょう？
中谷	・そうでもないよね。
△奥野	・事前には送ってたよね。できた時点で。
△武田	・年間計画のことですかね。
中谷	・うん。
△武田	・はい。それをつくるのに3カ月ぐらい時間が要るので、ちょうどそれぐらいででき上がるという感じだったと思います。あと、メールで仮承認というのも過去にありました。
水草	・いや、気にしているのは、7月1日任命なんだけれども、そこから10月までの間に何に基づいて何の活動をしているのかなというところだったんです。それは、計画がないからこそ見習いで、「とりあえず見習いたる活動してます」という言い方もあるし、「10月に正式承認されるまでの

		仮の計画だけでも、確定しただけで、皆さんの目は通ってますという前提でそれに基づいてやっています」というのもあるし、「10月までは隠し玉で、誰も何にも承認してないんだけど、自己決定した内容でとりあえず自主勉強でやっています」という言い方もあるし、どれなのかなと。
	中谷	・あと、その任命の日が金の払い方にも関係してくるんじゃないの。
	△中西	・そうですね。活動費が。
	水草	・となると、表向きはやっぱり「仮承認の内容に基づいてやっています」風がいいから、バッチグーのやつは10月に出してもらおうとはいえ、7月の段階である程度の、最低3カ月突っ走れるぐらいの何かはあったほうが。
	中谷	・うん。何か出してもらおうということにしましょうか。
	△中西	・はい。
	中谷	・まあ、合格すればですが（笑）。
	△中西	・では、お呼びいたします。（近藤啓太さん、入室） ・それでは、これから河川レンジャーの審査をしたいと思います。進めるに当たりましては、中谷委員長にお願いしたいと思います。
	中谷	・どうぞおかけください。応募用紙はみんな持ってまして、大体目を通してますけれども、5分程度で応募された動機なり理由をご自身の言葉で説明いただきたいと思います。お願いします。
	近藤	・こんにちは。京都大学文学部2回生の近藤啓太と申します。よろしくお願ひします。 ・まず、僕は出身が福岡の北九州で、言ってしまうえば滋賀県、琵琶湖、瀬田川に何も縁もない人間なんですけれども、今、京大のボート部で活動していて、以前河川レンジャーだった眞田さんの2つ下の後輩に当たります。 ・ほぼ毎日瀬田川の水の上に出て活動するというちょっと特殊な大学生活を送っているわけなんですけれども、冬時期は結構川はきれいなんですけど、夏になると、藻や水草が大量発生してて、それがすごくひっかかると。ボートは安定性が高いので藻がひっかかってもこぎにくいぐらいで済むんですけれども、レジャーのカヌーや競技用カヌーは安定性がそこまで高くないので、藻にとられてそのまま転覆してということが多く見受けられます。河川環境という意味からでも水草は余りよろしくないなというのがあるんですけれども、水の上で活動している僕の視点からいくと、水草があると、川での活動に乗り気じゃなくなっちゃうなみたいな感じが多少あって、見た目的にも活動内容的にも水草があるせいで川から人が離れちゃうなと結構感じていました。 ・それで、それをどうにかできないかなと思っているところでボート部の監督さんと眞田さんから河川レンジャーというのがあるよと紹介してい

		<p>ただきました。河川レンジャーが、地域の人だったり、僕らみたいな団体だったり、行政だったりをいろいろつないで回していくようなパイプみたいな活動をしているというふう聞いて、ちょうど空気が出たという話を聞かせてもらったので応募させていただいた次第です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、藻刈りや水草刈りを、例えば漁協の方々がいっぱい船を動員して先週の日曜日だか土曜日だかにもしてくださってましたし、僕らボート部も、いろんな大学のボート部が集まってモーターボートで表面をすくってというふうな活動をしたり、地域の大学生もサークルでそういう活動をしているんですがけれども、それはてんでんばらばらで、「うちはこの日に、うちはこの日に」という感じなんです。なので、連携をとって一緒に大規模にというよりも、ボート部はボート部、漁協は漁業という形で、ある程度大きい固まりではあるんですけども、閉鎖的な固まりの中でやっている部分があって、それを河川レンジャーの活動を通してつないで、行政ともつないでという形にすれば、今やっている活動でも結構——藻刈りをして1週間ぐらいはすごい効果があるんですけども、すぐもとに戻ってしまうところもあるので、そこをもうちょっと効果的に、そして一人一人の負担もちょっとずつ減らしながらできるんじゃないかなと思って。 ・そういったつなぐ活動をして、「じゃ、近藤がこういうことをしてくれたからこうしよう」まではいかななくても、「前に近藤というやつがこういうふうにつないで一回やったことがあるみたいだから、その近藤はもういないけど、これからもうちがしてみようか」というふうな形でできる基盤をつくりたいなと思って応募させていただきました。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。 ・そしたら、今お話いただきましたが、委員さんからそれぞれ質問等ありましたら、どうぞご発言ください。 ・どこかの大学みたいに監督の言うことを聞かなければならなかったからとか、それはないですよ？（笑）
	近藤	<ul style="list-style-type: none"> ・刈らなきゃ意味ないよなんてことではないです（笑）。
	大野	<ul style="list-style-type: none"> ・いろんな人と共同で水草刈りができたらいいというのが河川レンジャーとしてやりたい一つの具体的なことだと思うんですけども、近藤さんが考えるに、今からつなげていくためにはどういうことが必要だと思っているか、あるいは、その逆に、何で今みんなつながっていないと思っているのか、そこら辺はどう思っているかというのを教えてもらえますか。
	近藤	<ul style="list-style-type: none"> ・何で今つながらないのかのほうから話をさせていただくと、正直に言うと、あんまり大きい声で言っちゃいけない話なんですけれども、みんな嫌い合っているんです。「あっ、あの釣り人だ」「あっ、あのボート野郎」

		<p>みたいな感じで結構嫌い合ってて、交流の場や手を組むような機会もないので、言ってしまうと嫌いなままで。そもそも窓口がないような状態で、前の眞田さんはいろいろそういうところに行ったりはしてたんですけども、眞田さんだけが行ってという形だったんで、ボートと漁協がつながるといよりも眞田さんとつながるとい形だったんで、眞田さんの輪はできたんですが、ほかに広がらなかったなど。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・去年の冬ごろにはうちのボート部や同志社さんが自治体のヨシ刈りに参加して団体と団体という形のつながりがちょっとできてきているので、例えば水草刈りや川岸の清掃活動も個人が行ってという形じゃなくて団体が団体に入ってという形でやっていけば、もう少しつながりができて、「あっ、あのボート野郎」みたいないがみ合いも、いがみ合いまではいかないんですけども、そういうのも減って共同作業がしやすくなるんじゃないかなというふうには思っています。
大野		<ul style="list-style-type: none"> ・どうすれば組織と組織のつながりに持っていけそうとか、あるいは「私は、個人と個人じゃなくて、こうやって組織と組織のつながりに持っていきます」みたいなアイデアは何か考えていらっしゃいますか。
近藤		<ul style="list-style-type: none"> ・今、瀬田川を使っている団体はボート、カヌー、漁協で、「うちは今度こういう活動をするので、この日は瀬田川で活動するときにちょっと気をつけてください」みたいな情報共有はするんですけども、「こういう活動をします」で終わっているんで、それに対してレスポンスをするというか、「じゃ、そういう活動をされているんだったら、次から何か僕らにできることはありますか」というふうに言ったり、全部の団体の情報が全部の団体に入るので、例えば「A団体とB団体がやっているんだったら、うちもちょっとまぜてくれませんか」とか「Dさんも入りませんか」というふうに入ってくる情報を「ああ、そうなんですね」と言うだけじゃなくて、それに反応していくということも最初の1年、1年半じっくり時間をかけてやれたらなと思っております。
大野		<ul style="list-style-type: none"> ・その情報共有というのは、メールとか電話とか、何かそういう連絡網みたいなものがあるんですか。
近藤		<ul style="list-style-type: none"> ・大体メールですね。
大野		<ul style="list-style-type: none"> ・わかりました。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ・今お話しのとおり、ボート部は、京大あり同志社あり、結構ありますけれども、ボート競技をやっている団体さんの集まり的なものはないんですか。
近藤		<ul style="list-style-type: none"> ・瀬田川だけというよりは関西全体のボート部の集まりなんですが、関西学連というものがあります。ただ、瀬田川間のつながり、うちと立命館さんだったり同志社さんだったりという狭い部分でのつながりがちょっと薄いねという話になって、1回生だけが出る初心者用のレースが6月

		<p>2日(土)、3日(日)にあったんですけども、その後に瀬田川を利用する大学を京大の艇庫に集めて、そこで懇親会みたいなのが初めて開かれたんです。なので、そういうところのつながりもこれからでき上がっていくかなという感じではありますね。</p>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・あと、IVUSAというボランティア活動をしている団体に参加したことがあるボート部員さんは割といるんですかね。
	近藤	<ul style="list-style-type: none"> ・数えるほどぐらいですね。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・まあ、そうですね。今お話しされた各学校の集まり的なものができる、言ってもらっている目的だけに限らず、ほかの面でもいろいろがメリットがあるんじゃないかなと思いました。 ・ほかの委員さんはいかがでしょうか。
	水草	<ul style="list-style-type: none"> ・河川管理者として言うと、正直、水草は困ってないんですよ。なぜかという、洪水に別に問題があるわけではないし、下流で取っている飲料水の水が臭くなって、とてもじゃないけど夏場は飲みにくいよという場合は、それはもう厚労省になっちゃうというのが実際の問題になります。 ・ただ、水草が十把一からげに問題がないんじゃないくて、水草の中でもいわゆる外来種は問題になっていて、外来種という意味の問題にはなっているんだけど、ただ河川管理者としてはこれはまだ問題になっていない。この外来種が例えば堤防を破壊するだとか、樋門や水門にひっかかって、いざというときに閉められないという問題があるならば問題なんだけれども、それがないのでそれも問題になってないんですよ。 ・ところが、在来種と比較してという意味でいうと、少なくとも「外来種は生態系によくない」というのは共通認識として持っている。ただ、それが河川管理者の施設に影響を与えないばかりにそれに対する予算はおりないし、それに対して事業を所掌しない、つまり仕事としても与えられていないという、かゆいところに手が届かない実態があるんです。 ・それで、我々が眞田さんに期待していた一つは外来種の水草。ちょうどこの時期になると、オオバナミズキンバイという黄色い花が咲いているんですけども、それが陸から取れるところは我々も先ほどのIVUSAという国際ボランティア学生協会に協力いただいて取ったりするんですが、陸でも生えるし、水際でも生えるし、水の中でも生えるというしぶとい草なんです。なので、水際と陸は取れるんですけども、水の中が取れない。まあ、水際も、近寄れないところがあったりして、取れないものは取れない。そういうところにボート部のノウハウというか、マンパワーと言うと直接的なんですけれども、ノウハウがあればいいなと思ったりもして。 ・先ほどの議論を聞いてたかもしれないですけども、レンジャーが自分自身で刈ってたって意味がないんです。レンジャーが顎で使っている

		<p>な人を巻き込むという仕組みをつくって、さっきいいことを言われたんですけど、自分がいなくなってもそこが自動的に回る仕組みをつくれますと。持続性があるというのは大事だと思うんで、それを聞いて「ああ、そうだね」というふうに思ったんです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただ、レンジャーさんは、河川管理者が求めることだけをやればいいわけじゃないんです。別にそれだけをやってもいいんですけども、外来種も刈るし、外来種じゃないやつも刈ってもいい。それはもう自由にやってもらったらいいいんですけども、水の中のオールにひっかかるものだけをちょこちょこ取るだけだと、なかなか河川管理者の求めるところに行かなかつたりもするので、そのところはうまく使い分けということが出てくるのかもしれない。 ・そういった意味で、水の中からのパワーというところは我々もかゆいところではあったので、そこには期待しつつ、かつ先ほど言われた持続性というところを認識されているというのは非常にありがたいかなと。 ・そう思いつつ、学生さんなので、根木山さんみたいに6年もやられる方はなかなかおられないですよ。まあ、留年していただければ別なんですけれども（笑）、そういうわけにはいかず。だから、先ほど「1年、1年半じっくり考えます」とおっしゃってたんですけども、どうしても学生さんなのでスピード感を求められてくる。そのところをどう評価するかも含めてだと思います。
	大野	<ul style="list-style-type: none"> ・提案されている活動の内容はすごく大事だと思うんですけども、どれぐらい河川レンジャーの活動に時間を割けるのかなというのが心配なところなんです。2回生なのでこれから結構授業を取っていかないといけないと思いますし、文学部なので実習とかはそんなにないかなとは思いますが、そこにさらにボート部があったり、ひょっとしたらアルバイトをされてたりとか、いろいろなことがある中で、今おっしゃったことを実現しようと思ったらかなり時間を割かないとできないところがあると思うんです。その辺のところをご本人はどういうふうに考えているのかなというのを少し聞かせてもらいたいんですけども。
	近藤	<ul style="list-style-type: none"> ・文学部は、正直な話、よその学部と比べて、信じられないぐらいいいかげんな学部でして（笑）。大学の卒業単位数が、今の調子でいけば、3回生になるころには週五、六コマぐらいで大丈夫な学部で、文学部は実習のしようがないので実習もないです。
	大野	<ul style="list-style-type: none"> ・ちなみに、専攻は。まだ決まってないですか。
	近藤	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻は、西洋古代史です。さすがにイタリアに行くわけにもいかないんで。ですから、大学や部活で手いっぱいになっちゃうというふうなことは余り。まあ、僕がここからよっぽど大不振に陥って留年したら話は別なんですけれども、今は大丈夫かなというふうに思っています。

大野	・じゃ、毎週なり、定期的にある程度の時間をこの活動に割くことができるというふうに思って大丈夫ですか。
近藤	・はい。
水草	・来年は3年生ですよ。3年生って、部活では執行部みたいな。
近藤	・4回生が執行部で。
水草	・ああ、そうなの。
近藤	・はい。
中谷	・就活とかは？
近藤	・ですよ。大丈夫なんですかね(笑)。
水草	・ほかの人を顎で使うという仕組みをつくりさえすれば、そこの進捗管理というマネジメント側で動いてもいいとは思うんですよ。だから、今の近藤先生からの「どうするんですか」という質問に対する回答の一つは「早いところ子分を見つけて、それを子分と思わせないような感じでだまされ頑張ります」というのもあるわけだし、「時間があるから自分で頑張ります」だったら、それはそれでいいでしょうし、そこは先ほど私が言った「時間」。それは学生が終わるという時間もあるし、勉強での日々の時間というものもあるので、よくよく考えていったときにはそのところがあるのかなど。
中谷	・水草は水草なんだけれども、今、所長からお話があったオオバナミズキンバイやナガエツルノゲイトウのようにとても繁殖するものもあるし、水面の中に何とか藻というやつもあったりと、ちょっとその辺もややこしい。あと、その何とか藻の中でも昔からおるやつと、名前を聞いたことがあるかもしれないけれども、金魚とか飼うときのオオカナダモは、夏場になると湖の表面までパワーとなってきて、その上を鳥が歩いているみたいなことになったりするんです。まあ、瀬田川ではそんなにひどくはないんだけど、水草といえども一言で言いあらわさなくて、岸でモワモワするやつもあるし、漁師さんが邪魔に考えている、水の底から生えてくるやつとかもあったりするんで、ターゲットとしてどういう人を引っ張り込んでやるのかについても漁師さんとボートとはやや趣が異なるかなというようにも思ったりするんですけども、いつも水面を見て、ボリューム感は大体イメージできますかね。
近藤	・たまに下をふっと見ると、木が生えているのかというぐらいドーンと藻があるので、量はとんでもないなという実感はあります。
中谷	・そうそう。とんでもないので、かなり効率的に場所を決めてみんなが集中するとかしないと、変に手をかけていると、ちぎれたやつがよそへ行って繁殖するみたいなことにもなるし、あと、今、特定外来種ではさわるなというようにも思ったりもしているのでね。

水草	・下手にね。
中谷	・うん、下手にさわれないのでね。
水草	<p>・そこで僕が思うのは、彼は京大じゃないですか。京大というと、いろいろ学部もあるわけで、ボート部だから文学部だらけなわけじゃないでしょう？ 当然、理学部もいれば工学部もいる中で、例えば外来種生物の駆除をやっている先生や学生や研究室を見つけ出して、そこに「フィールド実験の場所があるぞ。ここで実験してみませんか。幾らでも実験で使っているから」というつなぎをしてくれたらこちらはこちらでありがたいですし、そういうのもやり方としてはある。</p> <p>・だから、藻が邪魔、草が邪魔というのはそうなんだけれども、それは刈るだけじゃなくて、生えないようにどうすればいいとか、生えちゃったものを人間様が刈るだけではないので、ほかに方法があれば何でもいいんです。今、我々も草の上にカバーをして光合成を行わせなかったらどうなるかという実験をやったりもしているんですけども、例えば不活性化する方法は何かあるのかとか、花が咲いているときに何かをピュッピュッとやると種ができないよとか、そういうのを実験している先生がいるよとか、そういったことがあれば、それをレンジャーとしてつないでもらえたらこちらとしてはありがたいですし、そういうやり方もある。</p> <p>・だから、学生さんに期待するのは、バックグラウンドにいろんな知識を持った、我々が想像もつかないようなことを研究している先生もいるだろうなというところで、それは京大の先生を引っ張ってきてもいいし、ボート部つながりで立命館の先生を捕まえてきてもいい。それは我々は知らないから、「生やさない方法や生えたのを食べてくれる動物を探している人がいるんだけど」という話でつなげてもらってもいいし。</p>
近藤	・はい。
中谷	・予定の時間になりましたので、ほかになければここまでとさせていただきます。ありがとうございました。
近藤	・失礼しました。ありがとうございます。(近藤啓太さん、退室)
中谷	・皆さんから活動のヒントがいっぱい出たという感じなんですが(笑)。
水草	・まさしくそこで、これから計画を立てるとのことなので、インプットしておけば柔軟に何でも対応できると。
中谷	・ということですよ。
水草	・はい。
中谷	<p>・では、合格ということにさせていただいて。</p> <p>・それから、さっきも話がありましたように、7月1日がスタートであれば、10月まで動けるようなものをまとめてもらって、各委員さんに回すと。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席の委員さんには今のやりとりをまとめてもらったものも一緒に送っていただけるといいと思います。
△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりました。
水草	<ul style="list-style-type: none"> ・眞田さんのときはもう計画があつてからでしたから、なかなか難しかったというのもある。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・うん、そうですね。 ・では、そういうことで、所長からも話があつたように、今後の活動の広がり期待するということですね。
大野	<ul style="list-style-type: none"> ・うん、可能性に。
水草	<ul style="list-style-type: none"> ・学生としての。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・うん、そこがね。まあ、うまくやれば、いろんなネットワークがずるずると広がっていくと思うので。
水草	<ul style="list-style-type: none"> ・問題は、そのずるずる広がるところに頑張っちゃったらどうするかということですね。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・うん、そうですね。
水草	<ul style="list-style-type: none"> ・そこは例の、委員会としてグリップをしっかりと。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・うん。それでいいのかということなので。
水草	<ul style="list-style-type: none"> ・当然、支援室もそこはちょっと様子を見ていただいて。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・うん、そうそう。そこは多分きょうの話を聞いた計画の書きぶりで一定わかってくると思うので、そこは適度にアシストをお願いします。
水草	<ul style="list-style-type: none"> ・1年半ぐらいつながりを頑張りますというのが、私はちょっと長過ぎるんじゃないかと思って。ここにも1年ぐらいかけてつながりをと書いてあるので。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・結局、時間を持ってても、つながらないものはつながらないので。
水草	<ul style="list-style-type: none"> ・そうそう。つながってからネタの仕込みじゃなくて、ネタを仕込んで、それをどうつなぐかを考えるためのだったらわかるんですけども、つながりをどうするかということが次の年に行っちゃうので、そこのところはしっかりと。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ということでよろしいですかね。
△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。
△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・1時半から長時間にわたりましてご審議いただき、ありがとうございました。では、これをもちまして第54回河川レンジャー制度運営委員会を閉会させていただきます。 ・次回は10月ということで、日程は改めて調整させていただきます。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に資料をいただけるのでしたら、また適当な時期をお願いします。
△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、そうさせていただきます。

		・きょうは、ありがとうございました。
--	--	--------------------

平成 30 年度 第 1 回 琵琶湖河川レンジャー・琵琶湖河川事務所 意見交換会 まとめ

- 日 時：平成 30 年 10 月 22 日（月）15:00～17:00
- 場 所：ウォーターステーション琵琶 2 階 交流スペース
- 趣 旨：河川レンジャーと琵琶湖河川事務所職員が、瀬田川・野洲川・琵琶湖に関わるものとして、それぞれの立場から語り合い、行政・河川レンジャー・住民の役割を認識・共有したり、河川の未来像を描いたりする機会とする。
- テーマ：河川事務所の課題について具体的に挙げて議論し、河川レンジャーが検討できること、河川事務所からのアイデアを共有する。
- 出席者：
 - 琵琶湖河川レンジャー（3名）
根木山 R、北村 R、水上 R
 - 琵琶湖河川事務所
奥野保全対策官、藤井係長
 - 流域連携支援室（河川財団）
中西、松岡、今井、小野、武田
- 内容：①河川 R から最近の活動事例の紹介
②河川レンジャーの「河川管理者が期待する河川レンジャー活動のリスト事例」に関する意見交換

■結果

①河川 R から最近の活動事例の紹介

(根木山レンジャー)

- 「野洲川の川守りをつなぐ」をテーマに野洲川で活動する体験学習の住民グループの組織化を進めている。(活動内容；川遊び、ボート下り、樹木伐採を野洲川出張所の協力・支援を受けながら実施)

直近では、公募伐採制度の樹木伐採で、「まな板」作成を実施した。今後も継続。

- 住民グループの組織化は、河川環境に興味を持つ親子を対象であったが、次年度の野洲川放水路 40 周年に向けて自治会単位を対象に住民ヒアリングを進めている。(中州地区の 5 自治会の長へのヒアリングは終了。共通意見もあるが、前向き、後ろ向き、それぞれある。後ろ向きな意見にも配慮した活動展開を考えていきたい。)

(北村レンジャー)

- 主に瀬田川流域の古写真を収集し、地域の河川との関わりや歴史を振り返る“地域の記憶掘り起こし”を行い、これから先のより良い地域と河川とのかかわりを一緒に考えていける“会話の場づくり”を目指して継続して取り組んでいる。

5 月に大津市曾東地区の会場で写真展を開催。来場者ヒアリングを通じて、天ヶ瀬ダム建設による水没地域(大津市外畑地区)方と繋がりが持て、水没前の写真約 250 枚の提供の協力を得た。今後、当該地域自治会等と調整し、資料の展示会を開催し、“地域の記憶掘り起こし”を進めていく予定。瀬田川上流域(洗堰周辺や唐橋周辺など)へも視野を広げて実施していけるよう考えている。

- 治水利水に関する学習ツールの作成を行っている。河川事務所にも協力を得ながら現地見学や資料提供、進捗状況の打合せを重ねて進めている。作成するツールは「天ヶ瀬ダム再開発事業」「琵琶湖・淀川水系の砂防」についての 2 種を進めている。

(水上レンジャー)

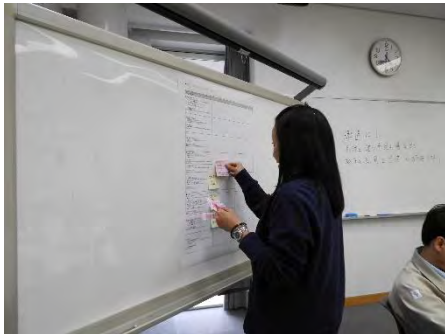
- 「住民と行政がともに考える川づくり」をテーマに今年度も活動を進めている。

野洲川河口部のヨシ帯調査。立命館守山中学校サイエンスクラブと河川環境課をつなぎ、近年ヨシ帯にヤナギが繁茂し、ヨシ生育に影響がでているため、ヤナギの抑制実証実験を行っている。調査結果はとりまとめ、琵琶湖河川事務所へ報告していく。

- 野洲川の清掃活動。中洲地区に CSR 活動で春と秋に清掃活動を行っている企業があり、一方、琵琶湖河川事務所は守山市と別途清掃している実態があった。昨年よりヒアリング等を重ね、両者をつなぎ、今年連携による清掃活動を実施。清掃は、根木山レンジャーとも情報交換や当日の参加など連携し、また野洲川親水公園(守山市占用)の利用度促進、水防災意識の啓発を狙い、清掃後に野洲川親水公園で水防災イベント(防災釜戸での炊き出し、水防工法体験)、水生生物調査を実施した。

②河川レンジャーの「河川管理者が期待する河川レンジャー活動のリスト事例」に関する
意見交換（*別紙参照）

◆開催状況



■地域ニーズに対して河川レンジャーで応えられること (まとめ)

表. 地域のニーズと河川レンジャーで応えられること (繋げられること)

地域から琵琶湖河川事務所に寄せられるニーズや想い (例)	地域のニーズに対して河川レンジャーで応えられることは何だろうか？	望まれる姿 (地域の変化)
<p>樹木を伐採してほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> > 繁茂が著しくて増水の後、ビニールなどがゴミが引っかかって景観が悪い > 繁茂が著しくて流れを阻害していないか > 増水したときに溢れないか > 利用したいのに水際に近づけない 	<ul style="list-style-type: none"> ○河川事務所の考え方を伝える <ul style="list-style-type: none"> ・公募伐採に応募する人を増やすキャンペーン ・樹木伐採木が必要な人へ公募伐採の情報を流す ○地域の想いを河川事務所へ伝えて共有する <ul style="list-style-type: none"> ・高水敷・樹木を必要としている方を探し河川管理者とつなぐ ○すでに実施されている行政・地域が連携した河川環境保全活動を紹介する ○地域や住民団体が主体となった取組みと一緒に考える <ul style="list-style-type: none"> ・樹木伐採の体験会を企画する ・冬の河川での野外体験学習として伐採を含む活動を企画する ・「MYまな板」づくりの体験プログラムとして企画する (伐採後の利活用を設定した地域による伐採) ・ただ伐採するだけでなくそのあとの利用についても考える 	<ul style="list-style-type: none"> ○河川事務所の日々の管理についてよく解った ○地域でもできることがあることが判った ○河川への愛着がもてた
<p>草を刈ってほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> > 繁茂が著しく景観が悪い > 利用したいのに高水敷の草で水際に近づけない > 花粉症なので早く刈ってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ○河川事務所の考え方を伝える <ul style="list-style-type: none"> ・高水敷の草を刈ってでも利用したいという人を探し河川管理者とつなぐ ○地域の想いを河川事務所へ伝えて共有する。 ○地域や住民団体が主体となった取組みと一緒に考える <ul style="list-style-type: none"> ・河川敷でのイベント企画を増やす ・中洲小の5月末の野洲川学習で堤防のソリすべりするのが事前草刈りボランティア活動を企画する 	<ul style="list-style-type: none"> ○河川事務所の日々の管理についてよく解った ○地域でもできることがあることが判った ○河川への愛着がもてた
<p>土砂を取ってほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> > 以前に比べて河道に土砂がたまってきたり安全なのか 	<ul style="list-style-type: none"> ○河川事務所の考え方を伝える <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で土砂を撤去しようとする方を見つけ繋いでいくことは難しいため、ニーズがあった場合、土砂を撤去できない理由を説明していく ○地域の想いを河川事務所へ伝えて共有する。 ○地域や住民団体が主体となった取組みと一緒に考える 	<ul style="list-style-type: none"> ○河川事務所の日々の管理についてよく解った
<p>水草を刈ってほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> > 繁茂してゴミが引っかかって汚い > 水面に支障がある (ボート・カヌーなど) > 臭いがひどい 	<ul style="list-style-type: none"> ○河川事務所の考え方を伝える <ul style="list-style-type: none"> ・外来種に対する取組人数が増えるように外来種駆除の取り組み状況を広める ・水草を刈って欲しい (IVUSA) の活動に1人でも参加者が増えるようにPRする ○地域の想いを河川事務所へ伝えて共有する <ul style="list-style-type: none"> ・水草・利用に支障がある団体を集めて一斉に刈る調整をする 	<ul style="list-style-type: none"> ○河川事務所の河川環境保全についてよく解った ○地域でもできることがあることが判った ○河川への愛着がもてた ○利用するようになった
<p>外来種を駆除してほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> > 外来種 (生物・植物) が増えて環境が悪化している 	<ul style="list-style-type: none"> ○すでに実施されている行政・地域が連携した河川環境保全活動を紹介する ○地域や住民団体が主体となった取組みと一緒に考える <ul style="list-style-type: none"> ・対象の外来種のことをまずは知る機会を設けて理解し、効果的な駆除実施方法を考えていく。(いい付き合い方の発見) ・外来種 (魚) …釣り大会 (体験)、試食体験 ・外来種 (植物) …抜き取りイベント+染め物 	<ul style="list-style-type: none"> ○河川事務所の日々の管理についてよく解った ○地域でもできることがあることが判った ○河川への愛着がもてた ○利用するようになった
<p>ゴミを取ってほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> > 近くの川沿いにゴミ (生活・飲食・喫煙等) があって汚い > 大型ゴミが投棄されている > 利用しようと思っても汚くて行けない 	<ul style="list-style-type: none"> ○河川事務所の考え方を伝える <ul style="list-style-type: none"> ・パネルで不法投棄の実態をPRする。その時のゴミマップを作成して配布する ○地域の想いを河川事務所へ伝えて共有する ○すでに実施されている行政・地域が連携した河川環境保全活動を紹介する <ul style="list-style-type: none"> ・定期清掃の周知 (すでに実施されている取組みの情報を広めて参加者増を促す) ・地域や住民団体が主体となった取組みと一緒に考える ・Eボートゴミ拾い (Eボートの乗船体験と絡めて、楽しみながらゴミを減らしていく) ○地域や住民団体が主体となった取組みと一緒に考える <ul style="list-style-type: none"> ・地域でもできるゴミがなくなるための役割は何かを機会を設けて一緒に考える ・地域や住民団体が主体となった取組みと一緒に活動する。実際に清掃活動をしている企業や地域の人たちと行政をつなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ○河川事務所の日々の管理についてよく解った ○地域でもできることがあることが判った ○河川への愛着がもてた ○利用するようになった

■地域ニーズに対して河川レンジャーとして知っておいてほしいこと

地域から琵琶湖河川事務所に寄せられるニーズや想い（例）	地域のニーズに対して河川レンジャーで応えられることは何だろうか？	望まれる姿（地域の変化）
<p>河川の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> >ボート・カヌーが降りしやすいように護岸に傾斜をつけたい >河川敷でバーベキューがしたい >つり用の台座を設置したい、設置している >河川敷でラジコンがしたい、していて危険では？ >河川敷でモトクロスバイクの練習がしたい、していて危険 >草を刈るのでスポーツの練習に使いたい 	<ul style="list-style-type: none"> ○河川事務所の考え方を伝える ○地域の想いを河川事務所へ伝えて共有する <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の声をヒアリングし潜在的な河川利用ニーズをさぐる ○地域や住民団体が主体となった取組みと一緒に考える <ul style="list-style-type: none"> ・「野洲川レストラン」と題して野洲川のめぐみをふるまうイベントを企画する ・中洲浸水公園で「川遊びオープンデイ」（子どもだけで遊びに来れる）を企画する ・住民から「カヌー」利用の声があるのでサポートする ・活かすと守るの相互作用（地域ニーズに沿った利用と同時に河川を「守る」行動を行っていく） ⇒Eボートゴミ拾い（Eボートの乗船体験と絡めて、楽しみながらゴミを減らしていく） 	<ul style="list-style-type: none"> ○河川利用の考え方についてよく解った ○内容によっては調整すれば利用できることが判った ○利用するようになった
<p>琵琶湖の水位が高い・低い</p> <ul style="list-style-type: none"> >水位管理をどのように考えてしているのか解らない >大雨で水位が高くなっているのになぜ下げないのか >漁業や農業、生きものに影響は？ 	<ul style="list-style-type: none"> ○琵琶湖の水位管理の考え方を伝える <ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖の水位調整（瀬田川洗堰の操作等）について理解してもらえるように繋ぐ ⇒当事者同士の話し合いの場づくり ⇒実際にあった事例をもとに水位調整について話す機会をつくる ○地域の想いを河川事務所へ伝えて共有する ○地域や住民団体が主体となった取組みと一緒に考える 	<ul style="list-style-type: none"> ○琵琶湖の水位管理についてよく解った ○琵琶湖だけでなく淀川水系全体で防災（水害）について考えられていることが判った
<p>水防災</p> <ul style="list-style-type: none"> >防災の情報を教えて欲しい >防災マップやハザードマップの見方・活用方法が判らない 	<ul style="list-style-type: none"> ○河川事務所の考え方を伝える ○地域の想いを河川事務所へ伝えて共有する ○地域や住民団体が主体となった取組みと一緒に考える <ul style="list-style-type: none"> ・船上非常食体験（Eボート乗船体験と絡めて） ・非常食の炊き出し体験（空き缶クッキング） 	<ul style="list-style-type: none"> ○防災の情報の入手方法が判った ○自主避難や備えの重要なことが解った

■その他

全般に共通する課題	地域のニーズに対して河川レンジャーで応えられることは何だろうか？	望まれる姿（地域の変化）
<p>河川に関わる情報を知る方法がわからない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○河川事務所の考え方を伝える <ul style="list-style-type: none"> ・取り組まれている活動を紹介してまずは参加してもらえるようにしていく。 ○地域の想いを河川事務所へ伝えて共有する <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーターステーションを利用した市民活動の情報発信。情報発信ボードを設置し、水辺に関する取組みの情報を発信する ○地域や住民団体が主体となった取組みと一緒に考える <ul style="list-style-type: none"> ・具体的なテーマを限定しない河川事務所の思いと住民の思いを聞く意見交換会を開催する。（本音で話せる前向きな意見交換会。河川レンジャーが中立の立場でコーディネート。）ニーズの再確認（この中から河川で活動している地域住民を発掘し個別に繋いでいく） ・地域でできること、できないことを整理して協力しあえる分担をしてまずはやってみる。 ・勉強会で知ることからはじめる。 	

その他意見

河川レンジャーが様々な地域のニーズに応えていくには、現在の人数では限度がある

○限られた人数で活動を活発化させていくには活動グループづくりが大事になってくる

⇒どのようなグループづくりが考えられるか

- ①自治会単位
- ②具体的な活動内容を設定して地域へ呼びかけ（有志を募る）
- ③現在地域活動をされている方へ呼びかける（活動されている方の情報は市町などへ提供をお願いしていくなど）

琵琶湖河川レンジャー勉強会 第1回水防災研修会の開催

1. 目的

琵琶湖河川事務所管内では、水防災意識社会の再構築に向けて、逃げ遅れをなくすための避難行動、長期的な避難のための取り組みなどが実施されています。

そのような中で、地域の方々が確実な避難行動を実施できるような、最近の取り組みについて基礎知識を学んで頂き、今後の地域連携の話題づくりや活動の参考にしていただくことを目的としています。

今回は、水害・防災・減災に関する基礎知識やマイ防災マップ作成事例を知っていただく研修会を開催しました。

2. 概要

- 開催日時 平成30年11月22日(木) 14時~17時
 開催場所 ウォーターステーション琵琶 2F 交流スペース
 研修内容
- ① 瀬田川宇治川の堰・ダム操作について(河川技術伝承会 北野正朗氏)
 - ② 水防に関する基礎知識を学ぼう(琵琶湖河川事務所調査課 北川課長)
 - ③ ハザードマップを活用しよう(守山市 危機管理局 井口課長補佐)
 - ④ マイ防災マップ作成について(淀川管内河川レンジャー 山口遼太氏)
 - ⑤ 意見交換
- 参加人数 24名(河川レンジャー3名、WS琵琶利用団体4名、講師4名、守山市1名、琵琶湖河川事務所6名、支援室6名)

3. 結果

事例発表、意見交換より



守山市 危機管理局
井口暢之さん



河川技術伝承会
北野正朗さん



琵琶湖河川事務所調査課
北川課長



淀川管内河川レンジャー
山口遼太さん

淀川ではすでに、この施策についてのレンジャー活動がなされているということで勉強になった。

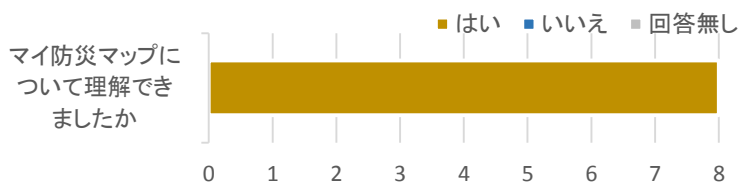
地域に密着した防災マップづくりが大切と思った。その過程で住民の意識が高まる効果が多い。

マイ防災マップの作成について事例に基づいた経験談が聞いて参考となった。

- 行政からみて、山口Rの事例のような活動はどのように思われるか？
 ⇒大変助かる。想定し得る水害を伝えて頂きたい。(琵琶湖河川事務所)
 ⇒事業PRになるため、事業を進めやすいと考える(守山市)
- どのように住民の危機意識の向上を図ればよいか？
 ⇒国が公表している浸水想定区域図をもとに、住民に説明することで、危機意識を持ってもらえると思う。(琵琶湖)
 ⇒また、住民には継続して説明することが必要と思う。(財団今井)
- 浸水想定区域図について、発生確率によって、避難先の場所が変わるのでは？
 ⇒浸かりやすい箇所は、発生確率が異なる場合においても、恐らく同じと思う。(琵琶湖河川事務所)
- 昼間の時間帯は、母と子どもが自宅にいることが想定される。そのため、母と子どもが自ら逃げられるよう、マイ防災マップ作成は必要と思う。

4. まとめ

今回の勉強会を通して、瀬田川洗堰の治水対策機能、水防災意識社会再構築ビジョン、市の防災マップ、マイ防災マップづくりについて専門用語から、基本的な知識を知って頂く機会となった。また、水防災の知識を河川レンジャーが一般の方の目線で広めていくことが意義のあるとの認識が持てた。今後も、河川レンジャーの方々に水防災のハード面、ソフト面の知識や方法などを議論しながら知って頂く機会を作っていきたいと考えます。



感想、アンケート結果より

知らなかったことが多く有益でした。

とても良い勉強会でした。4人の講師の話がセットになっていて、とてもわかりやすかった（各機関の知見が重なり合って）。

命に掛かる大切な取り組みのお話し、もっと多くの方に知って欲しい。

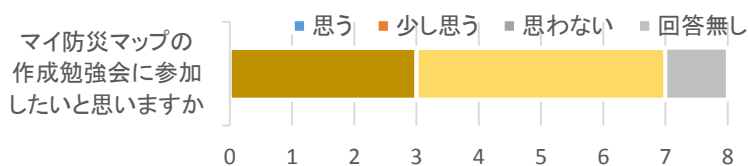
水辺の匠に展示して頂きクイズを出し参加者に知ってもらいます。
琵琶湖の会次回研修会は野洲川での学習をしたいと思います。

琵琶湖としてこの施策がレンジャーのまともになるか知りたいです。



5. 今後の予定

河川レンジャーの方々のニーズを聞きながら、継続的なノウハウの蓄積や実践ができるよう、第2回も開催していきたいと考えています。



次回勉強会の実施計画

「琵琶湖河川レンジャー勉強会 第2回 水防災研修」

場所 野洲川下流 幸津川地区 及び 野洲会館・公民館
守山市幸津川町1043番地の5

主な内容

- まち歩きの説明
- 現地まち歩きの実施
- マイ防災マップの作成
- まとめ・意見交換

時期 未定 午後開催を予定

まち歩きマップ原案 【幸津川地区】



■ : 浸水深0.5m~3.0未満の区域(出典:野洲川洪水浸水想定区域図)

●●●● : 1班のまち歩きルート

●●●● : 2班のまち歩きルート

【出典:国土地理院地図に加筆】

平成 30 年度 河川レンジャー年間活動計画 (案)

■ 近藤河川レンジャー

瀬田川流域の水草環境改善のための河川利用者間の交流の場の構築

氏名：近藤 啓太

作成日：2018年12月19日

背景と昨年度の課題	私は大学のボート部で瀬田川を毎日利用しているが、瀬田川は季節によって水草が繁茂し、水上での活動が困難となることがある。さらに、これによって景観も損なわれているので水草の除去活動を進めていきたいが現時点では瀬田川利用者、利用団体の連携がうまくとれていないためまずは交流の機会をつくり、大規模で効率的な水草除去活動などの一体となった大規模活動ができるつながりを作る。
実施目的	<p>(ビジョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瀬田川流域の利用者、利用団体が相互的に交流を深め、瀬田川流域の環境をよりよくしていく活動にともにとりくめるような関係性を構築する。 ・瀬田川利用者が自身にとってだけでなく、他者、他団体にとって居心地の良い瀬田川の姿がどのようなものであるかを概形でも認識する。 <p>(ミッション)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始めにボート部、カヌー部などの学生間でのつながりを作り、意識、意見の共有をする。そののち、学生らと住民などがお互いを信頼できるように接触の場を作る。そのために、まずは私がヒアリングに出向き、利用者、利用方法を認識し、架け橋となる。 ・そのうえで、瀬田川で活動している人同士の交流の場をまずは瀬田川に求めているものが近い人たちの間で設定する。そこで交流の場の設定に仕方を学び、複数団体の交流の場の構築につなげる。 ・複数団体の交流を何度か重ねたのち、水草除去など瀬田川流域の環境改善について各団体が考えていることの見聞交換会を開く。
今年度の成果目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 瀬田川利用団体、利用者、そしてその意見の把握。 2. 河川レンジャーという存在を各団体に認識してもらいたい。 3. 見聞交換会の設定。
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 瀬田川流域に拠点を構える大学ボート部へのヒアリング、交流会の企画などを通して複数団体がつながれる場を作るノウハウを蓄積し、カヌー部、流域住民の方々・・・へと範囲を拡大していく。 2. 私が河川レンジャーとしてヒアリングなどに出向き、自分がしようとしていること、瀬田川環境改善について求めていることなど互いの考えを交換する。順序としては京大ボート部内→同志社大ボート部→その他近隣のボート部、カヌー部、そして住民の方々といったように考えている。 3. 過去に行われた見聞交換会の実施内容、実施方法を確認し、1でのリストを参考にしながら交流会を開き、そののちに見聞交換会を開く。見聞交換会も上記1、2と同様に参加者が少ないものから多いものへと徐々に拡大していく方針で行う。それと並行して、京都大学で藻類の研究をしている方との接触を図り、見聞交換会への参加ができないか探る。

2018年度 琵琶湖河川レンジャー 年間活動計画

対象	瀬田川利用者及び管理者など。													
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	利用者の把握													
	レンジャーの認識													
	意見交換会設定													

■今後の活動を見据えてのこれまでの活動のまとめ

琵琶湖河川レンジャー 近藤啓太

これまでに行ってきた活動を大きくまとめると3つに分類することができる。

1. 他大学ボート部へのヒアリング
2. 藻刈りについてのヒアリング
3. 他団体、あるいは個人へのヒアリング

以上3つについてそれぞれ今年の活動を通じたまとめを進めていく。

1. 他大学ボート部へのヒアリング

本来は活動範囲となる瀬田川流域のボート部へのヒアリングを実施し、意見交流や連携確認を進める予定であったが、遠征先などでのヒアリングを実施していくうちに他水域大学へのヒアリングが増え、当初の目的と趣旨が異なるものとなってしまった。

この点については反省すべきであり、来年以降の活動に反映させるべきである。しかし、他水域へのヒアリングによって得られたものも多かった。その例として、戸田漕艇場での各大学のボート部の連携手段や、瀬田川水域はボート部の数も比較的多く、他水域よりは大規模な活動を推し進めていくことが可能であると認識できるなどした。こうした点は本来の予定では得られなかった知見であると考えられるので、来年度以降の活動全体につなげられるだろう以下の考察がえられた。本来の活動趣旨を把握しその本流から脱線しないように気を付けることが何より重要であるが、そこから離れたところでも思わぬ気づきや方法論を手にすることがあるので型にはまらずに来年の活動も柔軟性をもって行っていきたい。

2. 藻刈りについてのヒアリング

年間活動計画の表題に掲げているように、藻刈りを複数団体で行うことであるのでそうした経験がある、あるいはありそうな団体へのヒアリングを実施した。主な実績としては日本ボート協会、東京大学漕艇部へのヒアリングが挙げられる。水域こそ違おうが、複数の学生団体が協働して藻刈りを実施したという過去があるためこれらの団体にヒアリングを実施した。

日本ボート協会から各団体に通達をして大型モーターボートを駆り出して実施するという大変大規模なものであり気軽にまねできるものではなかったが、複数団体による協働が可能であると知れた点で有意義であったと考える。

3. 他団体、個人へのヒアリング

関西学生ボート連盟(以下学連)や京都大学農学部、農学研究科の個人にヒアリング、京都大学人間環境学研究科宮下英明教授へのコンタクトを実施。学連には②に示したような通達を学連から瀬田川流域の各大学に行うことが可能かを確認。可能ではあるがなんらかの動機付けがあるほうが望ましいとのことであった。

個人へのヒアリングに関しては、京大農学関係の学生二人にヒアリングを実施し、宮下教授が京都大学で唯一の藻類学専門家であるとの情報を入手。今月に入ってからメールを送り、現在その返信待ちである。返信をいただけるようであればまずは個人的に接触を図り、瀬田川を研究フィールドとして活用し、レンジャー活動に何らかの形で協力していただくことができないかご協力を仰ぐ予定である。

平成 30 年度 河川レンジャー中間活動報告

- 根木山河川レンジャー P. 1
- 北村河川レンジャー P. 5
- 水上河川レンジャー P. 11

テーマ： 野洲川の川守りをつなぐ

■中間活動報告書

氏名： 根木山 恒平

作成日： 2018年 11月22日

	年間活動計画	活動結果						
背景と昨年度の課題	<p>野洲川下流部のうち守山市中洲地区では、地域の長年の要望を受けて、守山市と国交省により野洲川中州親水公園が整備され、水辺へのアプローチや駐車場が完成しました。また、管理用道路を活用した自転車道も整備され、今後、地域外部から来訪者が増えることが期待されます。他方、地域（中州学区）では、守山市地域まるごと活性化プランにもとづく住民運動「野洲川プロジェクト」が活動最終年度を迎えます。また、親水公園の除草作業を担う住民チーム「あめんぼうサポート隊」が発足します。住民有志グループ「なかす野洲川たんけん隊」は活動4年目に入り、ひきつづき住民主体の運営体制へシフトしていきます。来年（2019年）には、野洲川放水路通水40周年を迎え、守山市、国交省でも記念事業を計画されるようです。</p> <p>この地域において、野洲川を地域資源としてまちづくりに活かす取り組みが活性化し、野洲川の利活用と維持管理が住民によって持続的に担える仕組みづくりが求められています。特に、地域住民が、親水公園の利活用について、そのポテンシャルに気づき、新たな魅力を発揮する利活用のアイデア、活動が生まれることが期待されます。</p>							
実施目的	<p>（ビジョン） 野洲川下流部（守山市中洲地区）において、野洲川中州親水公園をはじめとした野洲川での活動が活発化し、利活用と維持管理に住民が主体的に関わりつつけている状況を目指します。</p> <p>（ミッション） 野洲川周辺の住民や利用者に出会い、話を聞き、ニーズを把握し、関係構築する。住民のニーズにもとづく、野洲川を利活用した住民主体の活動をオーナガイズする。河川管理者や守山市と課題を共有し、住民との間のつなぎ役を果たします。</p>							
今年度の成果目標とこれまでの達成度	<p>※活動計画で掲げた成果目標に対してこれまでの達成度をA～F（Aが達成度最大、Fが達成度最低）の6段階で自己評価して下さい。また、そのように評価した理由や根拠があれば書いてください。</p> <table border="1" data-bbox="304 1263 1481 2072"> <tbody> <tr> <td data-bbox="304 1263 857 1525">1. 地域住民有志による野洲川での子どもたちの活動（こどもクラブ）を支援し、住民主体の持続可能な活動体制づくりを目指します（1年後）。</td> <td data-bbox="857 1263 1481 1525"> <p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。 メンバー数が子ども32名（前年比+10）、大人24名（前年比+2）まで増えた。試行錯誤中だが住民主体の運営の流れができてきた。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="304 1525 857 1809">2. 守山市中州学区の住民による野洲川での活動を支援します。住民に対するヒアリング等を行い、ニーズを把握するとともに、関係構築をはかり、2019年の野洲川放水路通水40周年を契機とした住民活動の活性化に寄与できるよう活動します。</td> <td data-bbox="857 1525 1481 1809"> <p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。 5つの自治会長、および、住民2人に対して、ヒアリングを実施したことで学区内の大枠の構図が見えてきた。ひき続き、ヒアリングを実施し、活動の芽を見つきたい。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="304 1809 857 2072">3. 河川管理者による野洲川の樹木伐採（公募）に対し、応募しようとする住民とのつなぎ役を果たします。</td> <td data-bbox="857 1809 1481 2072"> <p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。 昨年度につづき、こどもクラブで樹木伐採に応募してくれた。また、樹木の使用方法として、「まな板」づくりに取り組み、完成した。</p> </td> </tr> </tbody> </table>		1. 地域住民有志による野洲川での子どもたちの活動（こどもクラブ）を支援し、住民主体の持続可能な活動体制づくりを目指します（1年後）。	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。 メンバー数が子ども32名（前年比+10）、大人24名（前年比+2）まで増えた。試行錯誤中だが住民主体の運営の流れができてきた。</p>	2. 守山市中州学区の住民による野洲川での活動を支援します。住民に対するヒアリング等を行い、ニーズを把握するとともに、関係構築をはかり、2019年の野洲川放水路通水40周年を契機とした住民活動の活性化に寄与できるよう活動します。	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。 5つの自治会長、および、住民2人に対して、ヒアリングを実施したことで学区内の大枠の構図が見えてきた。ひき続き、ヒアリングを実施し、活動の芽を見つきたい。</p>	3. 河川管理者による野洲川の樹木伐採（公募）に対し、応募しようとする住民とのつなぎ役を果たします。	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。 昨年度につづき、こどもクラブで樹木伐採に応募してくれた。また、樹木の使用方法として、「まな板」づくりに取り組み、完成した。</p>
1. 地域住民有志による野洲川での子どもたちの活動（こどもクラブ）を支援し、住民主体の持続可能な活動体制づくりを目指します（1年後）。	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。 メンバー数が子ども32名（前年比+10）、大人24名（前年比+2）まで増えた。試行錯誤中だが住民主体の運営の流れができてきた。</p>							
2. 守山市中州学区の住民による野洲川での活動を支援します。住民に対するヒアリング等を行い、ニーズを把握するとともに、関係構築をはかり、2019年の野洲川放水路通水40周年を契機とした住民活動の活性化に寄与できるよう活動します。	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。 5つの自治会長、および、住民2人に対して、ヒアリングを実施したことで学区内の大枠の構図が見えてきた。ひき続き、ヒアリングを実施し、活動の芽を見つきたい。</p>							
3. 河川管理者による野洲川の樹木伐採（公募）に対し、応募しようとする住民とのつなぎ役を果たします。	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠を記載してください。 昨年度につづき、こどもクラブで樹木伐採に応募してくれた。また、樹木の使用方法として、「まな板」づくりに取り組み、完成した。</p>							

	年間活動計画	活動結果
	4. 野洲川における住民と行政が連携した清掃活動に対し、河川レンジャーとして関与し、支援します。	A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F ※理由・根拠を記載してください。 10/20に開催された「野洲川クリーン作戦」にこどもクラブが参画し、住民14名が参加してくれた。野洲川かわまちづくり事業の担当課と意見交換し、将来像について共有できた。
	※当初想定していなかった成果があれば記載してください⇒	
	※これまでの活動の中で、自ら評価できる点などを記載して下さい。 野洲川中洲親水公園を利用した子どもの体験学習を行う住民グループに参加する住民の数が増えてきており、また、住民主体の運営の流れができてきた。メンバーが増えることで、多少不協和音がでることがあるが、活動する中で解消できている。野洲川の樹木伐採と、伐採した樹木を利用したまな板づくりという学習プログラムができ、魅力が浸透した。	
活動内容の計画と途中経過	※活動計画で掲げた活動内容対して、これまでに実際に実施できた事柄、計画していたが実施できなかった事柄、さらに、当初予定していなかったが実施できたことなどを、前述の成果目標の番号と対比して記載してください。	
	① 住民有志による野洲川での子どもたちの活動（こどもクラブ） ・運営サポート ・資金調達支援（守山市助成金） ・実際の活動の運営支援（5～12月）	年度当初に、住民メンバーによる運営会議を支援し、住民メンバー主体で、年間計画と役割分担をし、それに基づき、活動の企画実施を行っている。資金調達についても、住民メンバーが公開プレゼンに参加してくれて獲得できた。新しいメンバーが増えて、混乱もある。
	② 守山市中洲学区の住民による野洲川での活動に同伴し、支援し、関係構築します。 ・中洲学区「野洲川プロジェクト」への参加・協力 ・住民組織「あめんぼうサポート隊」との関係構築 ・中洲学区住民を対象としたヒアリング（8～9月） ・2019年6月の40周年記念事業を契機とした活動（企画）の支援 ・炊き出しやマイ防災マップ等を念頭に防災活動としての住民活動の可能性の打診	「野洲川プロジェクト」は、来年3月末で終了することが決まっている。「あめんぼうサポート隊」は、メンバーが少なく、維持管理作業はされているが、利用面で課題がある。住民へのヒアリングを行うことで、5つの自治会ごとの特性や、状況、考え方の違いが把握できた。また、中洲学区の生活者の立場からの声も聴取できた。野洲川（中洲親水公園）の利用、活性化については、中洲学区住民の利用に限定せず、守山市内、ひいては市外の利用も含めた取り組みを視野にいれたい。「マイ防災マップ」の研修を受け、「水防災意識社会再構築ビジョン」（施策）のことも知り、活動のイメージをもつことができたので、関係者とも意見交換し、検討したい。
③ 河川管理者による野洲川の樹木伐採（公募） ・こどもクラブによる樹木伐採の支援 ・その他、河川管理者と課題を共有し、必要なことでできることを支援	こどもクラブの中の住民メンバーの中に「樹木伐採」と（伐採した樹木を使った）「まな板づくりという体験学習プログラムの魅力が浸透した。12月に琵琶湖博物館で行われる活動成果発表でも、樹木伐採を中心にした発表を行う。	

	年間活動計画	活動結果
	<p>④ 野洲川における住民と行政が連携した清掃活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のレンジャーとも情報共有をはかり、必要な協力、支援を行う。 <p>※当初予定していなかったが実施できたことがあれば記載してください⇒</p>	<p>水上レンジャーが中心になって琵琶湖河川事務所と地元企業との連携をされた取り組みに、伴走し、水上レンジャー、河川環境課との間でも情報共有、意見交換ができた。</p>
活動対象に対する関係づくりの途中経過	<p>※活動計画の中で、「活動の対象」として挙げた相手について、これまでにどのような関係づくりできたのかを記載してください。また、当初想定していなかった相手との関係づくりが出来た場合には、そのことも記載してください。</p> <p>① 住民有志（主に、子どものいる世帯や、子どもの活動の運営に関心のある方） ⇒野洲川をフィールドにした子どもたちの活動を、住民有志が持続的に運営できるようにサポート</p> <p>② 守山市中洲学区の住民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中洲学区「野洲川プロジェクト」メンバー ・住民組織「あめんぼうサポート隊」メンバー ・中洲学区住民（学区夏祭りでの出会いを想定） <p>⇒出会い、話をうかがい、ニーズを把握し、関係構築をはかる</p> <p>③ 樹木伐採に関心のある住民 ⇒樹木伐採（公募）に応募しようという住民のサポート</p> <p>④ 河川管理者、守山市、中洲学区、中洲子ども園etc. ⇒各担当者と接点を持ち、情報共有し、連絡がとれるような協力関係をつくる</p>	<p>・中洲小学校などに広報し、中洲学区住民2組を含む新しいメンバーを増やすことができた。</p> <p>・前年度からのメンバーに対して、主体的に活動を企画・運営するのをサポートした。</p> <p>・野洲川プロジェクトの運営会議にオブザーバー参加し、情報共有、意見交換している。</p> <p>・中洲会館を通して、あめんぼうサポート隊の情報共有をはかっている。</p> <p>・中洲学区住民7名に対して、ヒアリングを実施し、野洲川への思いや、利用、活性化方策についてご意見をうかがった。</p> <p>・こどもクラブによる昨年度、伐採した樹木をつかった「まな板」づくりの活動をサポートし、樹木伐採の魅力を住民メンバーに浸透させることができ、今年度も、伐採活動を実施することになった。</p> <p>・野洲川出張所、管理課、河川環境課、調査課とそれぞれ、情報交換、意見交換を行っている。</p> <p>・中洲会館、中洲小学校とも情報共有、意見交換を行っている。</p>
今年度における今後の課題	<p>※ これからの活動の中で取組んでいきたい事柄、活動の中で悩んでいる点などについて記載してください。</p> <p>来年は、野洲川放水路40周年を迎えるため、それを契機に、住民の野洲川での活動への参加を促進するための方策を立て、取り組みたいと考えている。中洲学区住民を対象としたヒアリングの結果や、河川管理者との情報共有（かわまちづくり事業、野洲川の保全、維持管理、水防災意識社会再構築ビジョンなどの諸施策）などを突き合わせて、効果的な取り組みを計画したい。</p> <p>中洲学区住民のヒアリングから、野洲川の活動については、中洲学区住民にこだわらず、守山市内、ひいては、市外の住民の利用も視野に検討したい。河川レンジャー研修会では、調査課から「水防災意識社会再構築ビジョン」という施策にからめて、最近、頻発しているこれまでにないような水災害に対する住民への働きかけのニーズをうかがうことができた。これまで、主に、中洲学区を中心に、取り組んできた「かわまちづくり事業」や「野洲川の樹木伐採」へのアプローチとの兼ね合いも含め、今後の重点活動をどこにおくべきか、検討しており、関係者からの意見を聴取し、適切に判断したい。</p>	

年間活動計画													
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1) こどもクラブ	運営 会議	運営 会議 資金 調達		救急 救命 講習	川遊 び	川遊 び	樹木 活用 活動	活動	振り 返り	発表			成果 報告
(2) 中洲学区	会議 参加			会議 参加		ヒア リング	ヒア リング	まと め	関係 構築 野鳥 観察	関係 構築	関係 構築 タコ あげ	40 周年 記念 行事 準備	40 周年 記念 行事 準備
(3) 樹木伐採									情報 共有	応募	伐採 作業	伐採 作業	伐採 作業
(4) 清掃活動	情報 共有			協力	清掃 活動		協力	清掃 活動					

※年間活動計画における工程計画（上段）に対して、これまでの活動実績及び今後の活動予定を記載してください。

年間活動計画													
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1) こどもクラブ	運営 会議	運営 会議		資金 調達 救急 救命 講習	川遊 び	川遊 び		川遊 び	発表 準備 上流 視察	発表			
(2) 中洲学区	会議 参加		野洲 川学 習	会議 参加		ヒア リング 依頼	ヒア リング	ヒア リング	ヒア リング	情報 交換	計画 立案	準備	準備
(3) 樹木伐採							樹木 活用	樹木 活用	公募 伐採 応募	準備	樹木 伐採	樹木 伐採	樹木 伐採
(4) 清掃活動	情報 共有			打合 せ	清掃 活動 中止		打合 せ	清掃 活動					

活動工程に関するふり返り

※当初の工程計画及びこれまでの活動結果をふり返り、出来なかったことに関して、今後どのように活動していくかなどについて記載して下さい。

(2) 中洲学区での野洲川放水路40周年に向けた準備がやや遅れているため、この後、しっかり巻き返していきたい。

テーマ： 河川にまつわる「地域の記憶掘り起こし」と会話の場の創出

■中間活動報告書

氏名： 北村 美香

作成日： 2018年 11月16日

	年間活動計画	活動結果
背景と昨年度の課題	<p>これまでの活動を継続し、河川と先人の関わってきた経験や知恵の集積が行われ、地域の歴史のひとつとして生活と共にあったころの河川情報に注目する。まずは住民と住民、その後住民と行政が話をするひとつの話題として活動により得られた情報を活用し、今後のあり方について意見交換ができる関係構築のきっかけづくりを目指す。双方のコミュニケーションの機会と場を増やすことで、河川整備をテーマとした地域づくりへと転換していきたい。</p>	
実施目的	<p>(ビジョン) 古写真収集やヒアリングより得られた成果や、個人のポテンシャルを活用できるものの中から、連携できるものを模索していく。また、幅広い層と河川について話す機会を創出することで、河川整備をともに議論できる関係構築を目指す。</p> <p>(ミッション) 地域の方と一緒に活動することで、長期的な活動の継続を目指し、そのための支援をしていく。また、住民と行政とが会話をするきっかけづくりの場を創出し、これまでの河川レンジャーの活動成果も活用して双方のコミュニケーションの機会と場を増やしていく。</p>	
今年度の成果目標とこれまでの達成度	<p>※活動計画で掲げた成果目標に対してこれまでの達成度をA～F（Aが達成度最大、Fが達成度最低）の6段階で自己評価して下さい。また、そのように評価した理由や根拠があれば書いてください。</p>	
	1. 河川に関する記憶を掘り起こしと、住民・行政の情報共有	<p>A ・ (B) ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>5月に写真展を開催し、多くの方にご来場いただけた。その際に、たくさんの方からお話を聞くことができ、1379名が来場いただき、26件の河川等に関するご意見、48件の展示写真にまつわるエピソード、15名の体験談録音を実施することができた。該当地区の古写真の提供をいただくことにもつながったため、今後の活動に繋げることができたと考えている。</p> <p>アマサイの動画を活用して、河川管理者の取り組む事業を紹介することもでき、過去の記憶と現在の取り組みに接点を持たし、情報の共有や意見を聞く場を設定することができた。</p>
	2. 河川に対する興味関心を高めることを目指し、各団体の活動を支援していく	<p>A ・ B ・ (C) ・ D ・ E ・ F</p> <p>「水辺の匠」への出店、各活動団体の現場視察等を実施し、情報交換や活動支援に向けての準備は日常からできた。具体的な取り組みとしては、個々の団体がイベント等で活動する際に、子どもたちに分かりやすく伝えるための工夫や、河川に興味を持ってもらえるような仕掛け作りについてのアドバイスをを行うことができた。</p>

	年間活動計画	活動結果
	3. 河川レンジャー活動の認知度向上	<p>Ⓐ ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>写真展会場で河川レンジャーについての紹介をおこない、昨年度作成した冊子も多く配布することができた。</p> <p>また、レンジャーレポートの執筆や京都新聞社の地域取材に2回協力し、記者の方が取材される際のコーディネートを河川レンジャーとして実施することができた。</p>
	4. 治水利水に関する学習ツールの開発、作成	<p>A ・ Ⓑ ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>河川事務所工務課のご協力のもと、アマサイに関する学習ツールを。砂防事業に関する学習ツールを県の砂防協会等のご協力のもと現在作成中である。アマサイについては、住民の方の意見等も反映させるために、簡易ではあるがアンケートも実施することができた。双方とも今年中の完成を目指し、2月にお披露目する機会を設ける予定である。</p>
	※当初想定していなかった成果があれば記載してください⇒	<p>写真展を撮影箇所近くで開催したことにより、一番伝えたかった地域の方と一緒に、新たな展開ができることになったのは一番の成果だと実感している。</p>
	<p>※これまでの活動の中で、自ら評価できる点などを記載して下さい。</p> <p>地域や関連団体の方とのつながりが、これまで以上に持てたことは評価できる。また、情報発信の成果として、京都新聞社の記者さんとの連携も今後の展開に期待ができると考えている。</p>	
活動内容の計画と途中経過	<p>※活動計画で掲げた活動内容に対して、これまでに実際に実施できた事柄、計画していたが実施できなかった事柄、さらに、当初予定していなかったが実施できたことなどを、前述の成果目標の番号と対比して記載してください。</p>	
	<p>① 河川に関する記憶を掘り起こしと、住民・行政の情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> 得られた情報を集約して、水のめぐみ館エリアでの情報発信または展示 地域における写真を活用したヒアリング活動の普及と支援 県内施設などさまざまな場で写真展を通じた会話の場の創出 	<p>ほぼ計画通りに実施できている。(詳細は、今年度の成果目標とこれまでの達成度1を参照)。今後の展開として、①年度内にウォーターステーション琵琶にて写真展を開催予定、②外畑地区で新規収集写真の紹介の機会を設定予定である。</p>
	<p>② 河川に対する興味関心を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動成果を伝える広報ツール作成 関連団体の活動支援およびネットワークの構築 	<p>ほぼ計画通りに実施できている。(詳細は、今年度の成果目標とこれまでの達成度2を参照)。</p> <p>年度末に向けて、今年度の新規収集写真や体験談などをまとめた広報ツールとして、前年同様冊子を作成予定である。</p>

	年間活動計画	活動結果
	③ 河川レンジャー活動の認知度向上 ・活動成果を伝える広報ツールの活用 ・活動成果を発信する場への参加	ほぼ計画通りに実施できている。(詳細は、今年度の成果目標とこれまでの達成度3を参照)。 ②にも記載したが、広報ツールとして前年同様冊子を作成予定である。 今年度の活動を広く伝える取り組みの一つとして、2月に開催予定の「川づくりフォーラム」へ参加予定である。
	④ 治水利水について興味を持ってもらうための学習ツール作成 ・砂防、河川、天ヶ瀬ダムについての教材開発と利活用	ほぼ計画通りに実施できている。(詳細は、今年度の成果目標とこれまでの達成度4を参照)。 今年度は砂防とアマサイについてのツールを開発、作成中であり、年内完成を目標に取り組んでいる。完成後は、近隣小学校および図書館、生涯学習施設への配布や、周知イベントの開催も考えている。
	※当初予定していなかったが実施できたことがあれば記載してください⇒	ほぼ計画通り実施中である。
活動対象に対する関係づくりの途中経過	※活動計画の中で、「活動の対象」として挙げた相手について、これまでにどのような関係づくりできたのかを記載してください。また、当初想定していなかった相手との関係づくりができた場合には、そのことも記載してください。	
	① 住民(近隣住民で年代を問わない)、河川事務所職員、河川レンジャー	写真展に、展示写真の撮影箇所近隣の外畑地区、内畑地区、曾束地区の方が多く来場されたため、より具体的な話が聞けた。また、終了後の活動にもこの地区の方が加わって下さり、地域住民との関係づくりには大きな一歩を出せたと考えている。 河川事務所職員の方とは、アマサイの学習ツール開発を中心に、工務課、調査課、管理課の方にご協力いただくことができた。
	② 住民(近隣住民で年代を問わない)、関連団体	コハクチョウを愛する会さん、釣り人による清掃活動さん、滋賀県遊漁船協会さん、レトロカフェさんをはじめとする関連活動団体の方と、これまで以上にネットワークを構築することや意見交換を行うことができた。行政では、滋賀県、大津市、宇治市とのつながりもでき、今後の活動に活用していきたい。
	③ 住民(子どもたちやその家族が中心)	毎月ウォーターステーション琵琶の来館者向けに実施している、河川にまつわる体験プログラムの参加者の方と、日常的な会話から、今後の河川管理にまつわるような会話までおこなう機会を持つことができた。地味ではあるが、河川レンジャーとして一番大事な活動であると考えているため、今後も継続させていきたい。

	年間活動計画	活動結果
	④ 住民(近隣住民で年代を問わない)、 河川事務所職員	南郷地区を中心とする住民と、河川事務所職員の方が意見交換などができる交流の場が少なかったように感じている。
今年度における今後の課題	今年度もほとんど終わってしまっているが、残りの時間は活動成果をまとめることに重点を置き、ツールの完成と周知活動をメインに取り組んでいく予定である。	

年間活動計画												
工程計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ヒアリングおよび写真収集	常時活動 宇治川ライン調査											
会話の場の創出	びわこ池田記念墓地公園 で写真展開催 WSB写真展開催 過去の成果を活用した取組み(時期は目安)											
関連団体の活動支援	常時活動(情報を収集しつつ、機会があれば参加)											
治水利水について興味を持ってもらうための学習ツール作成	ツール作成に向けて情報収集 ツール案作成と検討 ツール発表会											
活動周知活動	成果冊子作成 川づくりフォーラム参加 子どもや家族を中心に、WSBにて周知と河川への興味関心を目指した取組みを月1度程度開催											

※年間活動計画における工程計画（上段）に対して、これまでの活動実績及び今後の活動予定を記載してください。

年間活動計画	
工程計画	4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
ヒアリングおよび写真収集	<p>常時活動</p> <p>宇治川ライン調査</p>
会話の場の創出	<p>4/28-5/6 びわこ池田記念墓地公園で写真展開催</p> <p>WSB写真展開催</p> <p>活動成果を活用したツール作成、レトロカフェへの設置 11月以降</p>
関連団体の活動支援	<p>常時活動（情報を収集しつつ、機会があれば参加）</p> <p>フィッシングスクール</p> <p>7/22 水辺の匠</p> <p>一斉清掃</p> <p>※他、多数あり</p>
治水利水について興味を持ってもらうための学習ツール作成	<p>ツール作成に向けて情報収集</p> <p>6/7 事務所打合せ</p> <p>10/22 事務所打合せ</p> <p>ツール案作成と検討</p> <p>ツール発表会</p>
活動周知活動	<p>6/17</p> <p>8/12</p> <p>10/27</p> <p>子どもや家族を中心に、WSBにて周知と河川への興味関心を目指した取り組みを開催</p> <p>成果冊子作成</p> <p>川づくりフォーラム参加</p>

活動工程に関する振り返り
<p>年度初めに大きな写真展を開催しておくのと、その後の調査時間が確保しやすくなるため、次年度以降もこのスケジュール感で実施するのが活動の充実につながるのではないかと感じた。</p>

テーマ： 住民と行政がともに考える川づくり

■中間活動報告書

氏名： 水上 幸夫

作成日： 2018年 11月20日

	年間活動計画	活動結果								
背景と昨年度の課題	私は、川は住民の宝であり、できるだけ多くの人々に「川に関心を持ってもらい」「川に直接ふれてもらい」「川のことを自ら考えてもらう」等の行動をしてもらえるような「住民参加の川づくり」の取り組みを進めるべきだと思っている。そのためには、行政（河川管理者）と住民がともに考える川づくりを進めることが重要であると考えている。									
実施目的	<p>(ビジョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 野洲川が多くの人の活動場所となる。 ② 住民が川づくりに参加できるような仕組みができる。 ③ 住民と行政がともに考える川づくりの仕組みができる。 ④ 最終的には住民と行政が連携した住民参加の川づくりが実現する。 <p>(ミッション)</p> <p>サブテーマとして3つのテーマで活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域住民参加の川づくり ② 企業参加の川づくり ③ 地元中学校参加の川づくり 									
今年度の成果目標とこれまでの達成度	<p>※活動計画で掲げた成果目標に対してこれまでの達成度をA~F（Aが達成度最大、Fが達成度最低）の6段階で自己評価して下さい。また、そのように評価した理由や根拠があれば書いてください。</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 企業、地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくり</td> <td>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</td> </tr> <tr> <td></td> <td>昨年度ヒアリングした企業に活動を理解していただき、行政・企業・地域住民がともに活動する野洲川河川清掃を実施する事ができた。</td> </tr> <tr> <td>2. 地元中学校参加の川づくり</td> <td>A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</td> </tr> <tr> <td></td> <td>立命館守山中学校の野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査については YRP（意見交換会）を開催し行政と立命館守山中学校の思いをつないだモニタリング調査が実施できた。</td> </tr> </table> <p>※これまでの活動の中で、自ら評価できる点。 CSR 活動による企業参加の川づくりの活動は野洲川清掃活動を通じて企業との信頼関係づくりができ、企業、地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくりに向けて来年度は更なる飛躍ができる感触を得た。</p>		1. 企業、地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくり	A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F		昨年度ヒアリングした企業に活動を理解していただき、行政・企業・地域住民がともに活動する野洲川河川清掃を実施する事ができた。	2. 地元中学校参加の川づくり	A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F		立命館守山中学校の野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査については YRP（意見交換会）を開催し行政と立命館守山中学校の思いをつないだモニタリング調査が実施できた。
1. 企業、地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくり	A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F									
	昨年度ヒアリングした企業に活動を理解していただき、行政・企業・地域住民がともに活動する野洲川河川清掃を実施する事ができた。									
2. 地元中学校参加の川づくり	A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F									
	立命館守山中学校の野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査については YRP（意見交換会）を開催し行政と立命館守山中学校の思いをつないだモニタリング調査が実施できた。									

	年間活動計画	活動結果
<p>活動内容の計画と途中経過</p>	<p>※活動計画で掲げた活動内容に対して、これまでに実際に実施できた事柄、計画していたが実施できなかった事柄、さらに、当初予定していなかったが実施できたことなどを、前述の成果目標の番号と対比して記載してください。</p> <p>① 企業、地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民と行政そして企業がともに活動する川づくり活動計画（野洲川河川清掃 春季） （川を守る編） ・住民と行政そして企業がともに活動する川づくり活動計画（野洲川河川清掃 秋季） （川を守る、川を利用する、川から守る編） 	<p>(1)住民と行政そして企業がともに活動する川づくり活動計画（野洲川河川清掃 春季）・・・河川愛護月間に実施</p> <p>行政、企業との調整ができ、ほぼ活動計画通りの野洲川河川清掃を実施できるように進めたが、今年は命に関わる暑さで全国各地で熱中症になる人もたくさんおられ、各地で行事も中止になっているため今年の河川愛護月間中の河川清掃は中止して秋に延期する事とした。</p> <p>(2)住民と行政そして企業がともに活動する川づくり活動計画（野洲川河川清掃 秋季）</p> <p>～川を守る、川を利用する、川から守る～</p> <p>野洲川沿川の企業が実施している CSR 活動（河川清掃）を行政（国、自治体）、企業、住民と繋ぐ活動から始めた。</p> <p>①行政（琵琶湖河川事務所、守山市） 野洲川クリーン作戦</p> <p>②企業 中州地区で春と秋に河川清掃実施（CSR 活動）</p> <p>③立命館守山中学校 野洲川河口部ヨシ帯の調査に併せて河川清掃を実施</p> <p>④なかす野洲川たんけん隊（地域住民） 中州地区で活動（根木山レンジャーと連携）</p> <p>最初は上記の行政、企業、中学校、地域住民を繋ぎ「行政と企業、中学校、住民を繋ぐ野洲川清掃活動」を計画した。</p> <p>行政と企業、中学校、地域住民を繋ぐ野洲川清掃活動を実施</p> <p>1) 実施日時 平成 30 年 10 月 20 日（土） 9 時～12 時</p> <p>2) 参加者・・・90 名 (株)イマック、なかす野洲川たんけん隊、地元自治会、琵琶湖河川事務所、守山市</p> <p>3) 実施項目</p> <p>第 1 部 河川清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間 : 9 時～10 時 ・清掃場所 <ul style="list-style-type: none"> ①野洲川右岸 1. 8 k 付近～下流 琵琶湖河川事務所 ②野洲川親水公園 1. 8 k 付近～下流

	年間活動計画	活動結果
		<p>(株) イマック、なかす野洲川たんけん隊、地元自治会、守山市琵琶湖河川事務所、河川レンジャー</p> <p>第2部 川の防災イベント (野洲川通水40周年記念プレイベント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間 : 10時～11時15分 ・実施内容 <ul style="list-style-type: none"> ①土のう積み体験 土のうづくり、積み土のう工 ②防災かまどによる非常炊き出し体験 ③水生生物調査 <p>第3部 防災かまどを利用した交流会 (自由参加)</p> <p>成果 企業、地域住民が川づくりに参加できるようなきっかけづくりが出来た</p> <p>計画していたが実施できなかった事</p> <ul style="list-style-type: none"> ①立命館守山中学校が参加できなかった。 ②交流会での行政と住民の繋ぎ(コーディネーター)が不十分だった
	<p>② 地元中学校参加の川づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政主体から住民(立命館守山中学校)が主体的に活動し、それが継続するようにコーディネートする。 ・立命館守山中学校と琵琶湖河川事務所の思いをつなぐ。 ・立命館守山中学校と行政(琵琶湖河川事務所)との意見交換会(YRP)により、お互いの思いを聴き、新たな活動を模索する。 ・調査項目にヤナギの抑制実験を追加し、その調査結果の発表の場として今年度は新たに日本ストックホルム青少年水大賞へのエントリーを行う。 ・日本ストックホルム青少年水大賞へのエントリーにあたっては、琵琶湖河川事務所と連携してモニタリング調査及び調査成果作成について支援する。 	<p>①立命館守山中学校の野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査についてはYRP(意見交換会)を開催し行政と立命館守山中学校の思いをつないだモニタリング調査が実施できた。</p> <p>②また、立命館守山中学校が主体的に活動し、それが継続するようにコーディネートした。</p> <p>③日本ストックホルム青少年水大賞へのエントリーについては調査項目に新たにヤナギの木の抑制実験を追加し、その調査結果の発表の場としてエントリーを目指したが実現できなかった。 今後の課題として、来年度も引き続きモニタリング調査を続けていき琵琶湖河川事務所と連携してモニタリング調査及び調査成果作成について支援する。</p>
	<p>※当初予定していなかったが実施できたことがあれば記載してください⇒</p>	

	年間活動計画	活動結果
活動対象に対する関係づくりの途中経過	※活動計画の中で、「活動の対象」として挙げた相手について、これまでにどのような関係づくりできたのかを記載してください。また、当初想定していなかった相手との関係づくりが出来た場合には、そのことも記載してください。	
	① 企業	野洲川清掃活動を通じて担当者の方との信頼関係づくりができた。 企業、地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくりに向けて来年度は更なる飛躍ができる感触を得た。
	② 地域住民	野洲川清掃活動に積極的に参加して頂いた。 来年度はより多くの方に野洲川清掃活動に参加して頂ける気運ができた。
	③ 管理者（琵琶湖河川事務所）	河川レンジャー活動についてともに考え活動する関係づくりができた。
	④ 立命館守山中学校	顧問の先生が変わったが引き続き野洲川ヨシ帯モニタリング調査を通じて継続した信頼関係ができた。
今年度における今後の課題	<p>※ これからの活動の中で取組んでいきたい事柄、活動の中で悩んでいる点などについて記載してください。</p> <p>①企業、地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくり 野洲川河川清掃の実施後の感想について参加者にヒアリングして、その結果を参考に来年度の活動計画を検討し、計画を作成する（3月）。</p> <p>②地元中学校参加の川づくり モニタリング調査の成果の発表の場として行政（琵琶湖河川事務所）と立命館守山中学校の思いを繋ぐ意見交換会を開催する。（2月）</p>	

		年間活動計画											
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	野洲川清掃活動	ヒ ア リ ン グ	活 動 計 画 作 成	関 係 者 と 最 終 調 整	清 掃 活 動 実 施	ヒ ア リ ン グ	ヒ ア リ ン グ	関 係 者 と 最 終 調 整	清 掃 活 動 実 施		と り ま と め	考 察	
	野洲川河口部ヨシ帯再生モニタリング調査	ヒ ア リ ン グ	春 季 調 査 実 施	YRP 開 催	YRP 開 催			秋 季 調 査 実 施		YRP 開 催	YRP 開 催	成 果 発 表	

※年間活動計画における工程計画（上段）に対して、これまでの活動実績及び今後の活動予定を記載してください。

		年間活動計画											
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	野洲川清掃活動	ヒ ア リ ン グ	活 動 計 画 作 成	関 係 者 と 最 終 調 整	清 掃 活 動 酷 暑 の た め 延 期	ヒ ア リ ン グ	ヒ ア リ ン グ	最 終 調 整 清 掃 活 動 実 施	ヒ ア リ ン グ		と り ま と め	考 察	平 成 31 年 度 計 画 検 討
	野洲川河口部ヨシ帯再生モニタリング調査	ヒ ア リ ン グ	春 季 調 査 実 施			YRP 開 催	YRP 開 催	秋 季 調 査 実 施	YRP 開 催	YRP 開 催	YRP 開 催	成 果 発 表	

活動工程に関する振り返り

※当初の工程計画及びこれまでの活動結果を振り返り、出来なかったことに関して、今後どのように活動していくかなどについて記載して下さい。

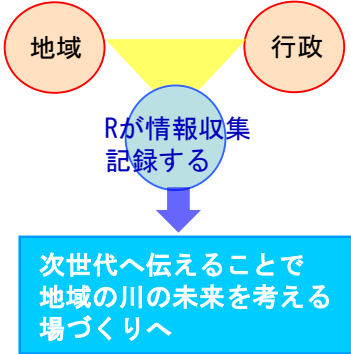
今後のスケジュール (案) について

平成 30 年度の琵琶湖河川レンジャーの年間スケジュール (案) は以下の通りです。

時期	制度運営委員会等	河川レンジャーミーティングおよび勉強会(仮称)	その他 (Rレポート発行、流域連携支援室関係 他)
4月			
5月		5/18 第1回 河川レンジャーミーティング	
6月	6/7 意見交換会 6/7 第54回 制度運営委員会		
7月			流域連携イベント 7/21・22「第11回 水辺の匠」
8月			
9月			琵琶湖河川レンジャーレポート VOL.35 発行
10月	10/22 第1回 琵琶湖河川R・琵琶湖河川事務所 意見交換会		
11月		河川レンジャー勉強会 「第1回 水防災研修」 (座学)	
12月	12/27 第55回 制度運営委員会		流域連携イベント 12/2「第7回 水辺の匠クリスマス」
1月	第2回 琵琶湖河川R・琵琶湖河川事務所 意見交換会		琵琶湖河川レンジャーレポート VOL.36 発行
2月	第56回 制度運営委員会		流域連携イベント 「淡海の川づくりフォーラム」
3月		河川レンジャー勉強会(予定) 「第2回 水防災研修」 (現地研修)	琵琶湖河川レンジャーレポート VOL.37 発行

平成
30
年度

北村レンジャーの巻 琵琶湖河川レンジャー レポート



**河川にまつわる
地域の記憶掘り起こし
より良い川づくりに向けて**

地域の記憶掘り起こし
と会話の場の創出に向
けて

北村レンジャーは、地域と川のかかわりの情報を記録・収集し、地域へ伝えていく活動をしています。その手法として、昔の生活史などの情報や古写真を集め、それらを活用したヒアリングを行っています。ヒアリング機会の場として開催する写真展がメディアの目に留まり取材を受ける等、河川レンジャー活動の広報・周知する機会も増えてきています。今後は、地域にとつてのより良い川づくりについて意見交換の場の創出へ展開していく予定です。

河川レンジャーより



少しずつ調査を進めてきました写真収集や、当時のお話を聞かせていただく活動ですが、ゴールデンウィークに大きな進展がありました。宇治川ラインを航行していた遊覧船に関する写真や、船着き場のあった津市外畑地区の写真を、里帰り展示する機会をいただきました！外畑地区の隣の曾東地区の会場で1000人以上の方に会場にだけきました。近隣の地区の方がたくさんご来場下さり、「この写真に写っているのは誰々さんやなあ」「この当時、観光の人がいっぱい来てなあ」「などの思い出話があちこちで咲いてその場に一緒にさせていた

河川レンジャー
活動支援室

2018年9月発行

VOL. 35



けることが本当に楽しかったです。写真の思い出と一緒に今の河川への想いなどをお話し下さる方も多く、しっかりと伝えていく方法を考えなければと思っています。今回の写真をお貸し下さった井谷さんもご来場され、たくさんのお話を聞かせてくださいました。外畑にお住まいだった原田さんからは、以前外畑の写真を集めたときのお話を聞かせていただき、その写真を探して下さるとのこと。今後の発展に期待できるとで今後の発展もありました。地域の記憶を、地域の方に残していく。河川をご縁にいたできた機会を大切に、今後も地域の記憶を、地域の方に残していく活動をしていきます。

(北村美香)



河川レンジャー活動紹介・レンジャー名・“活動テーマ”・進行している活動



根木山レンジャー

“野洲川の川守りをつなぐ”

野洲川下流部・守山市中洲地区にて活動しています。

住民による野洲川における体験学習グループの立ち上げを支援し、今年1~3月には、野洲川の樹木伐採（公募）に応募した住民活動が実現しました。他方、来年の通水40周年に向け、地域住民へのヒアリングを進めています。



水上レンジャー

“住民と行政がともに考える川づくり”

～野洲川河口部ヨシ帯調査～

立命館守山中学校の生徒の皆さんが、野洲川河口部で、琵琶湖河川事務所と共にヨシ帯等調査を行っています。今年は従来の継続調査に加え、新たな活動として繁茂しているヤナギの抑制対策の実験を生徒達を中心に実施しています。地域の学校の思いと行政の思いを繋ぎ「住民と行政がともに考える川づくり」の一歩となるように活動を進めています。



似顔絵作成中

☆期待のニューフェイス！！

近藤レンジャー

“瀬田川の川守りをつなぐ”

今年度、新しい仲間として近藤河川レンジャーが誕生しました！

現役の大学生です！フレッシュな世代ならではの発想で、瀬田川を中心に活動を開始していきます。

活動拠点 (問い合わせ先)

水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶内 河川レンジャー活動支援室
〒520-2279 滋賀県大津市黒津4-2-2 TEL077-536-3520 FAX077-536-3530
E-mail : r-manager@water-station.jp URL : http://www.water-station.jp/ranger
FB : http://www.facebook.com/BiwakoRanger

フェイスブックで活動を広報しています！

琵琶湖河川レンジャーFacebookページ
https://www.facebook.com/BiwakoRanger/